

## 新学習指導要領説明会 ～何がどう変わったのか～

子どもたちのために知っておきたいことは？  
学校教育に関心のある皆様  
学習支援ボランティアの皆様

吉田和夫

狛江市在住67年の狛江市民  
一般社団法人 教育デザイン研究所(代表理事)  
玉川大学 教師教育リサーチセンター(客員教授)  
日本大学 文理学部教育学科(非常勤講師)  
東京都・狛江市 地域学校協働活動推進員  
(狛江市統括コーディネーター)  
一般社団法人 DAC未来サポート文化事業団(理事)



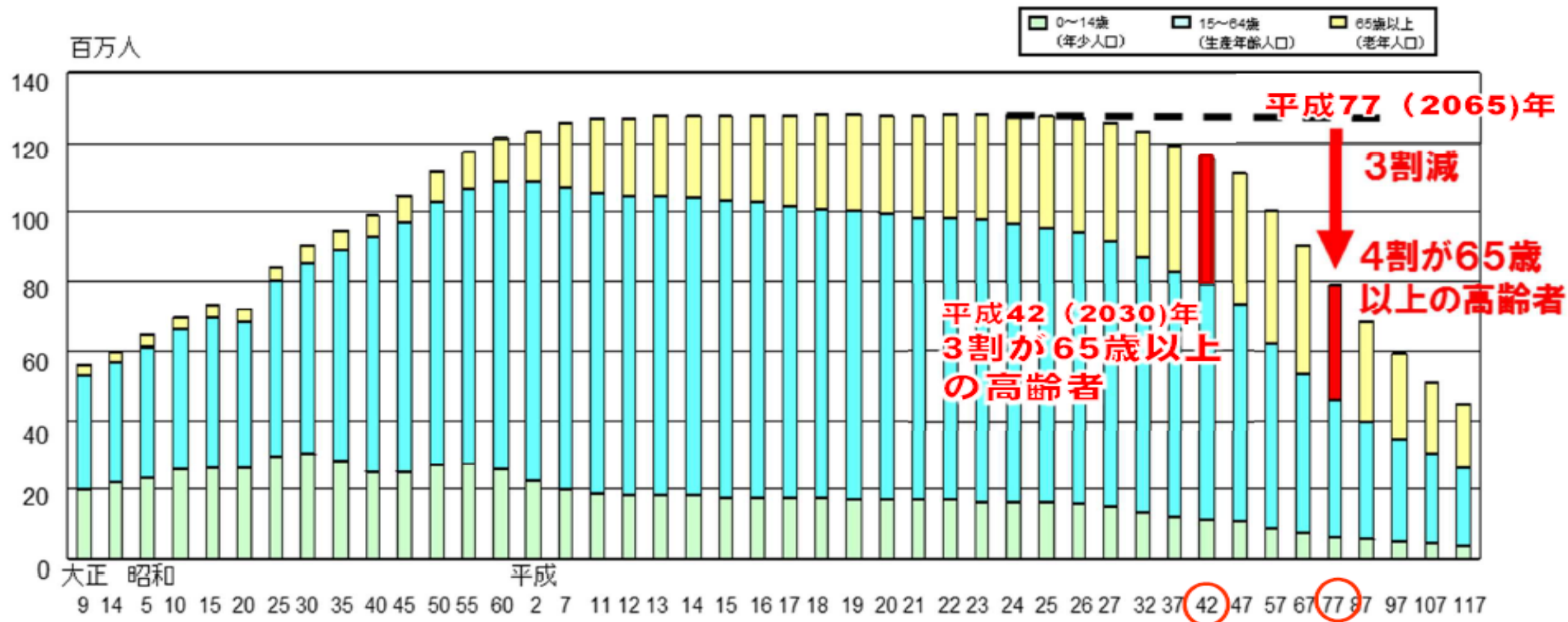
# 自己紹介

- ・ 狛江市在住歴 約67年(生まれてからほぼずっと狛江市民)
- ・ 狛江第二(緑野)小学校から都立世田谷工業高校付属中・高校へ
- ・ 大学(心理学・哲学・国語学)で千葉県教員採用試験に合格・採用
- ・ 千葉県茂原市・船橋市の中学校で**国語科・英語科**教員(8年)
- ・ 東京都採用試験に合格し、調布市・稲城市で国語科教員(13年)
- ・ 上越教育大学大学院派遣研修 **米国母語教育(英語)を研究し「言語教育行為の可能性」**で修士号取得(中高国語専修免許取得)
- ・ 品川区及び東京都教育委員会で**指導主事**(7年)教育改革と研修
- ・ 杉並区で**副校長**・八王子市・新宿区で**校長**(9年) CSの実践研究
- ・ 町田で **玉川大学客員教授**・同市社会教育委員の会議長(生涯学習審議会会長) その他 **都内学校の研究・研修の講師 全国講演**

# どうなる日本！急激に進む日本の高齢化率

## 人口の推移と将来人口

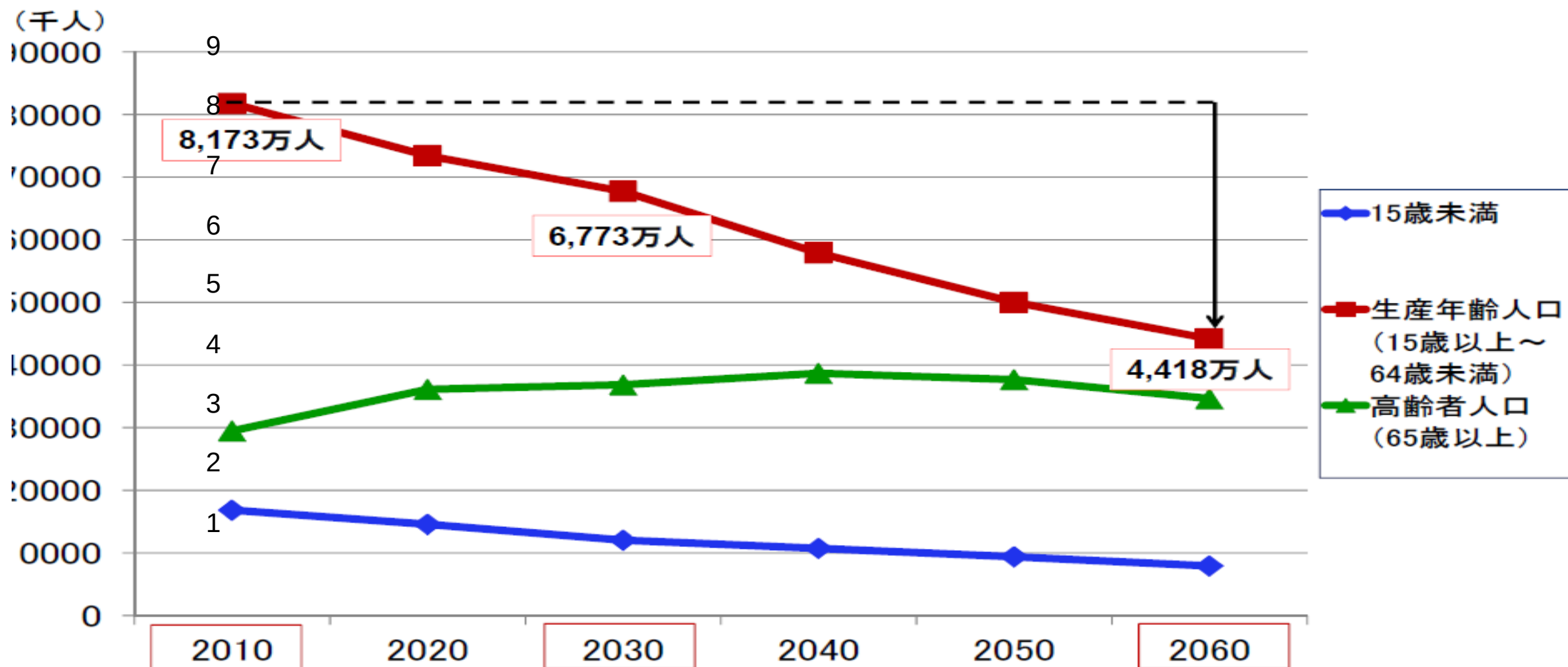
◆ 少子高齢化の進行により、2030年には我が国の総人口の3割が65歳の高齢者となる。  
さらに約50年後には総人口が現在より約3割減少、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み。



# どうなる日本！生産年齢の見直し？

## 生産年齢人口の推移

◆生産年齢人口は減り続け、2030年には2010年と比べ約8割（総人口の約58%）、2060年には約半数まで減少する見込み。

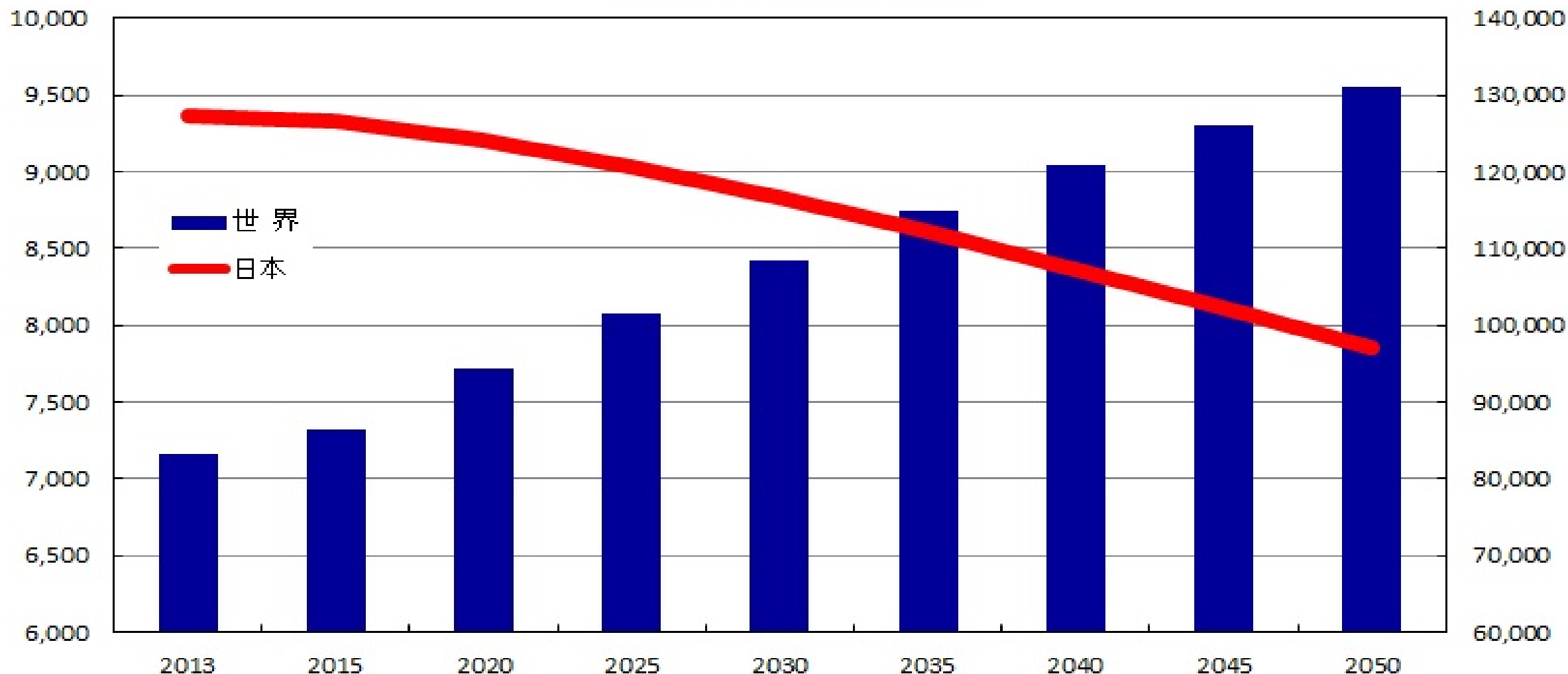


# 世界の人口と日本の人口

## 世界の人口推移

(100万人)

(1,000人)



(データ元: 統計局ホームページ)

<http://haitoudori.com/category10/entry96.html><sup>3</sup>

# どうなる日本！グローバル化の進展

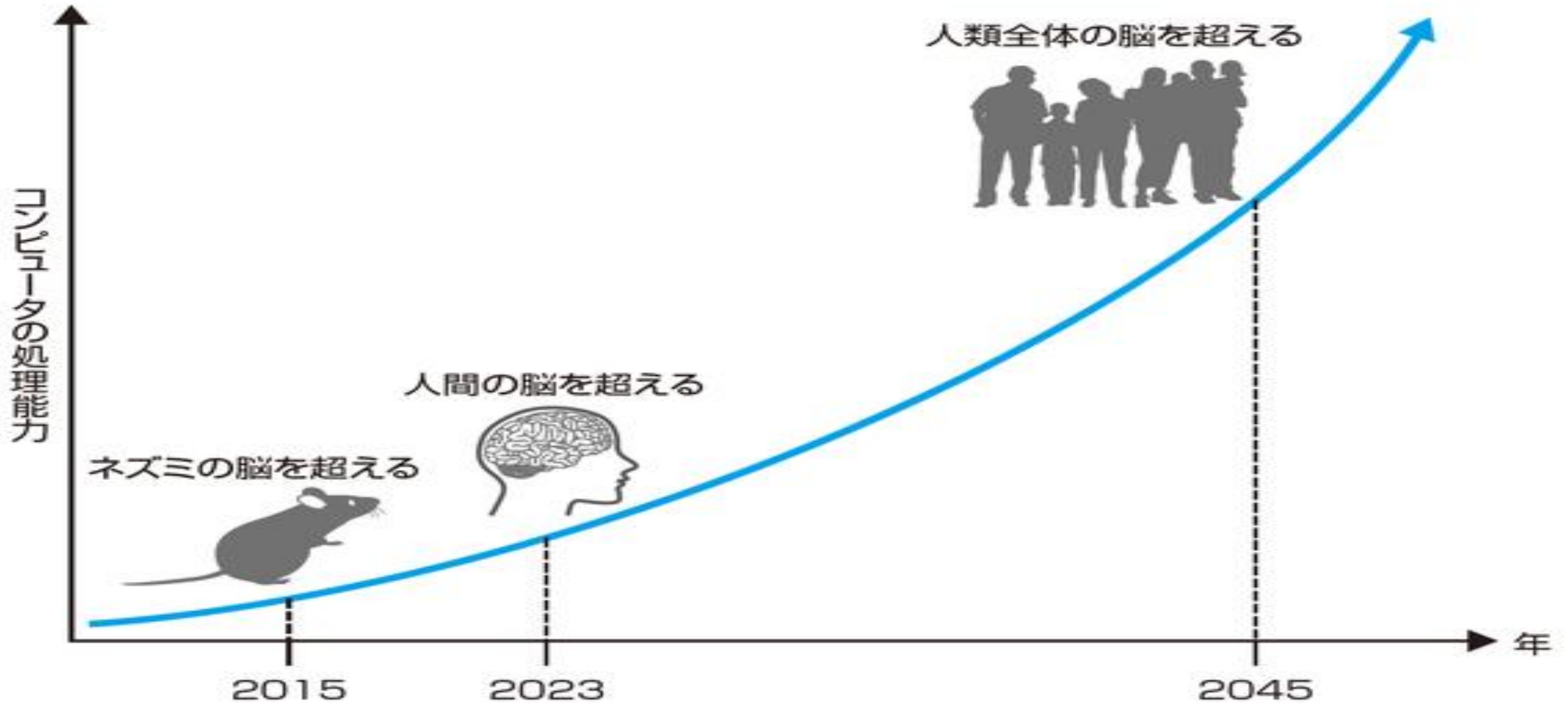
外国人との関係の変化    雇用・生活・文化  
教育活動や内容の変化    英語の必修化  
日本語教育の最前線    日本語文化の両義性





# AIとシンギュラリティ(技術的特異点)

シンギュラリティ (2045 年問題)



# AIにより仕事が変わる！

## 仕事を奪われそうな職種

## 仕事を奪われそうにない職種

| 職種         | 奪われる確率 |  | 職種           | 奪われる確率 |
|------------|--------|--|--------------|--------|
| 電話による販売員   | 99%    |  | 医師           | 0.40%  |
| データ入力      | 99%    |  | 小学校などの教師     | 0.40%  |
| 銀行の融資担当者   | 98%    |  | ファッション・デザイナー | 2.10%  |
| 金融機関などの窓口係 | 98%    |  | エレクトロニクス技術者  | 2.50%  |
| 簿記・会計監査    | 98%    |  | 情報通信システム管理者  | 3.00%  |
| 小売店などのレジ係  | 97%    |  | 弁護士          | 3.50%  |
| 料理人        | 96%    |  | ライター・作家      | 3.80%  |
| 給仕         | 94%    |  | ソフトウェア開発者    | 4.20%  |
| タクシー運転手    | 89%    |  | 数学者          | 4.70%  |
| 理髪業者       | 80%    |  | 旅行ガイド        | 5.70%  |



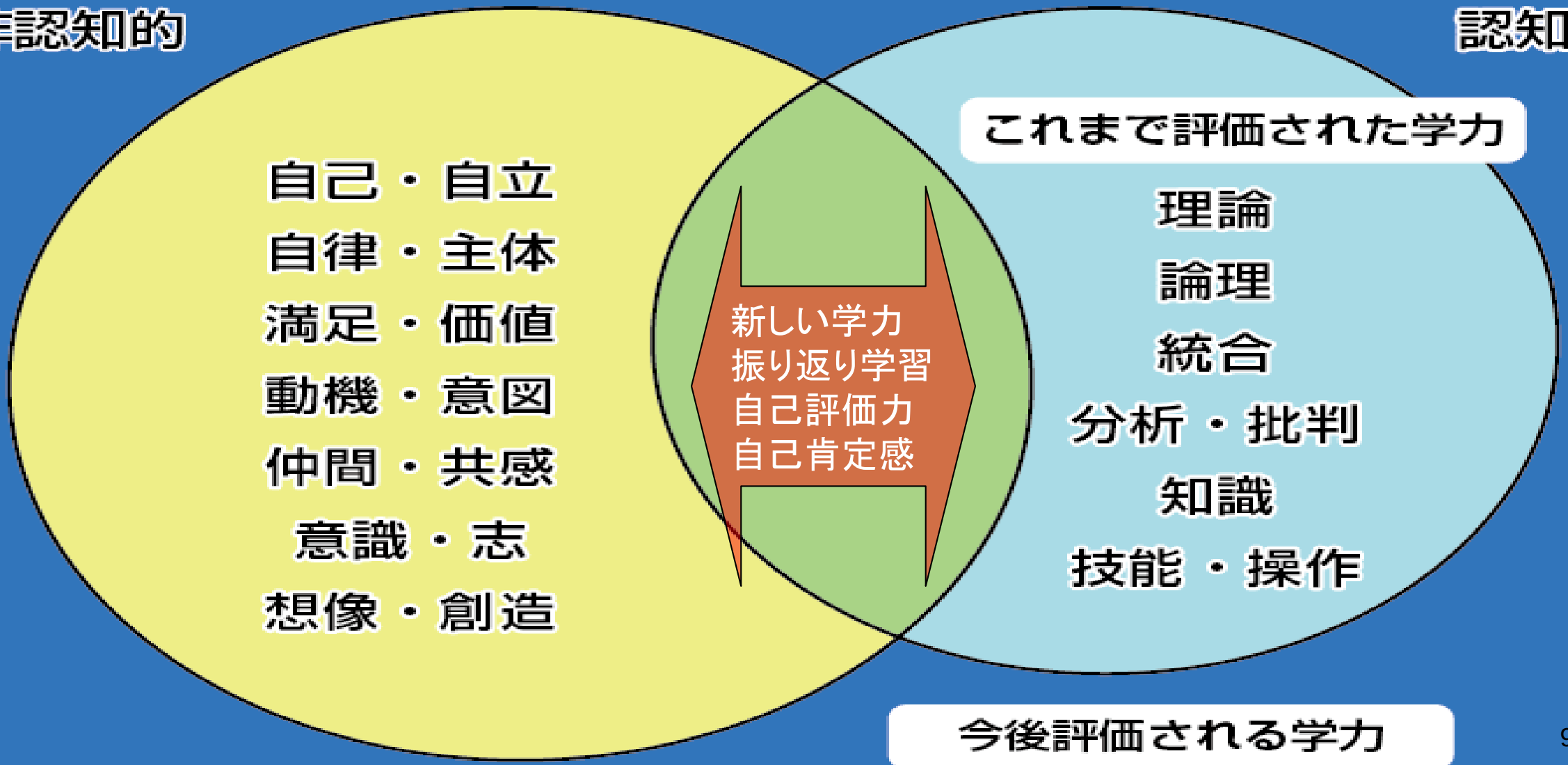
# 非認知的能力の重視

「多面的な」学力の意義

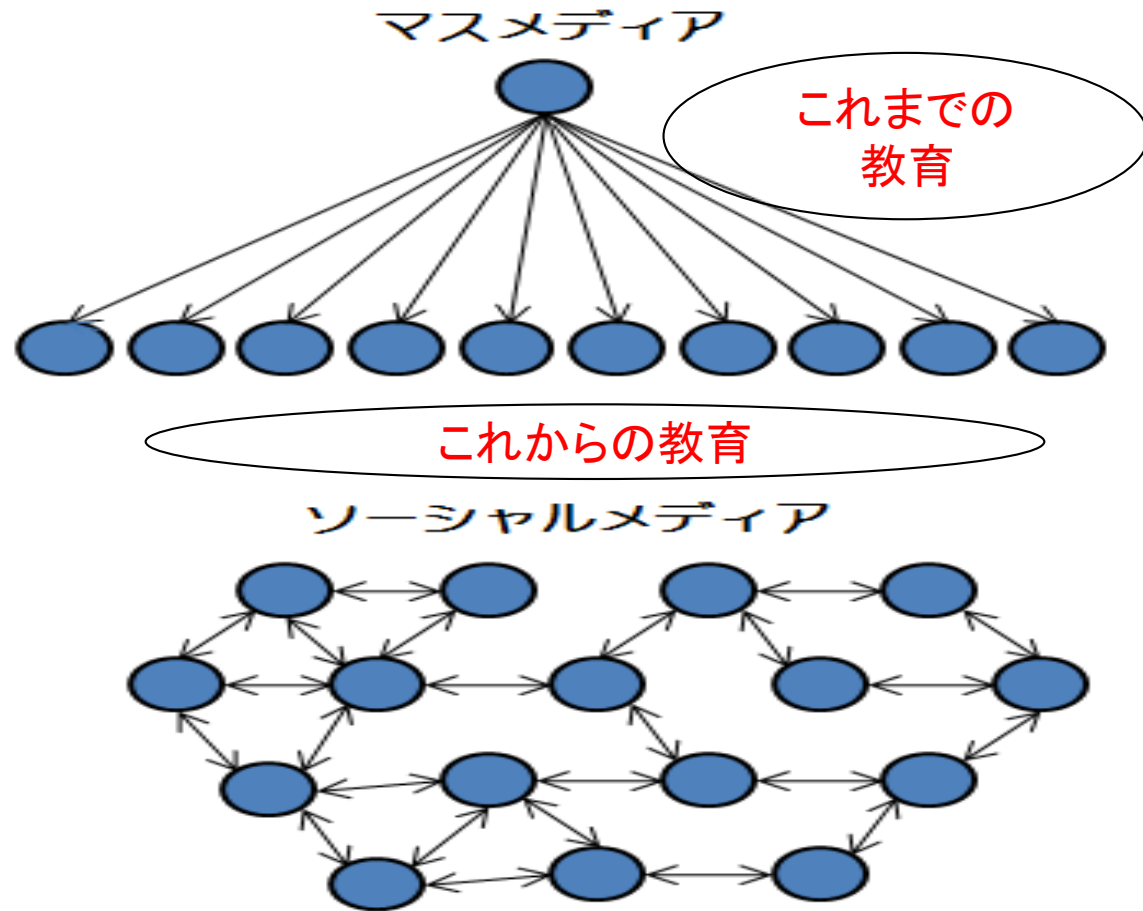
Authentic(真性)

非認知的

認知的



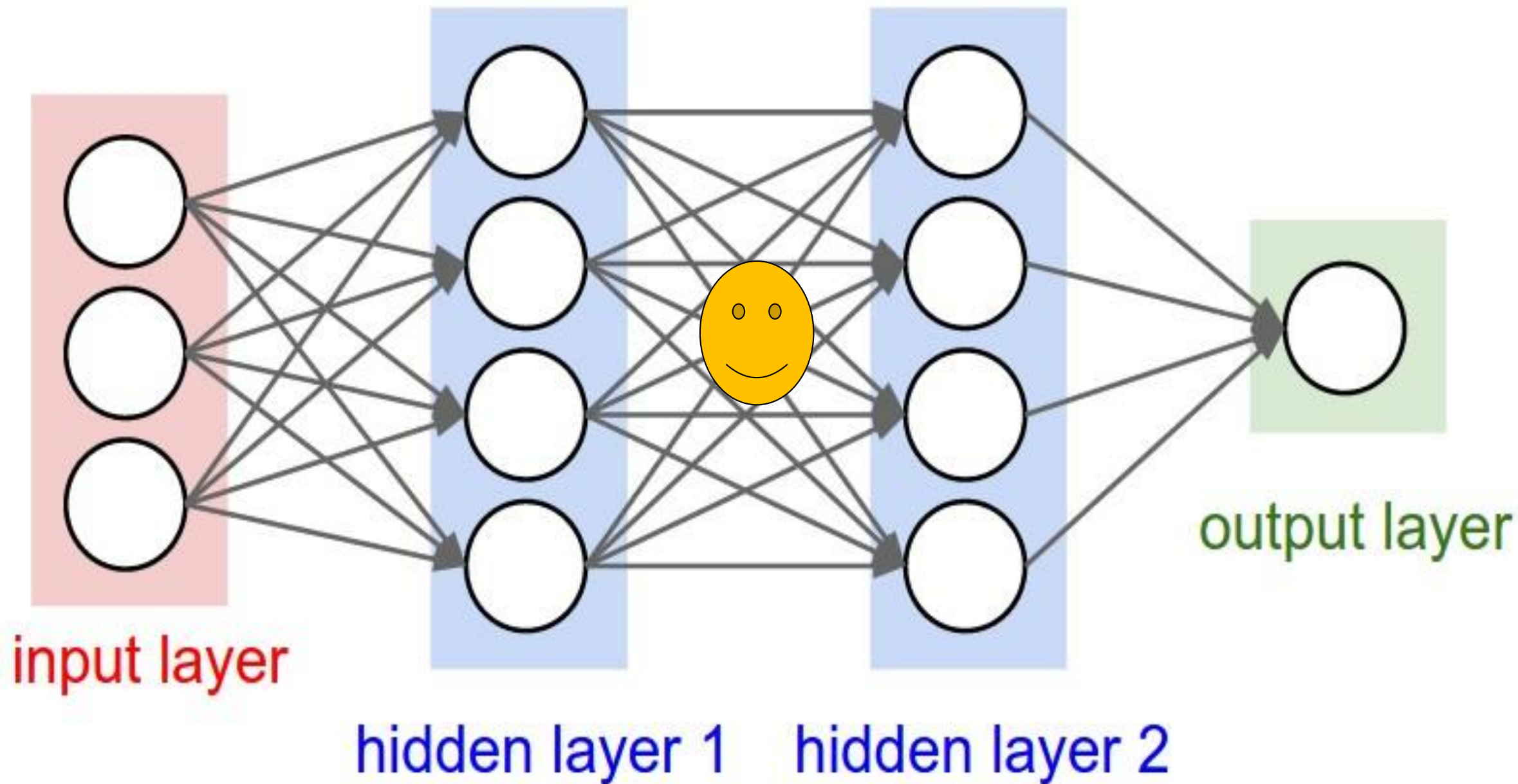
# 組織や知の在り方 変容と対応



- 一斉授業・講義型授業・伝達型講習の限界
- SNS (Social Networking Service) 的効果

★ 知識の一方的伝達から、課題解決に向けて、相互交流的な活動により「最適解」の発見・獲得へ(アクティブ・ラーニング)

# ネットワークに埋め込まれた「学び」





# 現在更新中の学習指導要領

[https://www.youtube.com/watch?v=wc8VdrwOMBs&ab\\_channel=%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%E2%Fmexchannel](https://www.youtube.com/watch?v=wc8VdrwOMBs&ab_channel=%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%E2%Fmexchannel)

## 学習指導要領改訂の方向性（「生きる力」の理念の具体化）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など  
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない

※高校教育については、長年学習指導要領が大学入学資格取得と関係が深くなっており、  
そうした点を克服するため、重要用語の整理等をめぐる大規模改訂を進める。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

## 新学習指導要領

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm#section3](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm#section3)

主体的・対話的で深い学びの実現  
（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

学びを人生や社会に  
生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力  
等の育成



## 【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



## 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



- ★ 主体的な学び・対話的な学び・深い学び の相互依存性
- ★ 主体的に学習に取り組む態度・思考判断表現・知識・技能という観点
- ★ 「社会に開かれた教育課程」 学校と社会との連携・協働
- ★ 考え議論する道徳（特別の教科道徳）
- ★ 小学校における英語科 プログラミング学習
- ★ 高等学校における「総合的な軟球の時間」（「総合的な学習」における課題探究活動の明確化）
- ★ コミュニティ・スクール（学校運営協議会のある学校づくり）

# 歴史的総括としての変遷

## 学習指導要領の変遷



## 変遷

- 4.1 1947年 (昭和22年) -
- 4.2 1951年 (昭和26年) -
- 4.3 1956年 (昭和31年) -
- 4.4 1961年 (昭和36年) -
- 4.5 1971年 (昭和46年) -
- 4.6 1980年 (昭和55年) -
- 4.7 1992年 (平成4年) -
- 4.8 2002年 (平成14年) -
  - 4.8.1 2003年 (平成15年)
- 4.9 2011年 (平成23年) -
  - 4.9.1 2018年 (平成30年)
- 4.10 2020年 (令和2年) -



# 学習指導要領の変遷

## 振り子型能力観への対応（系統主義と経験主義）

|                    | 長所                                                                      | 短所                                                                       | 日本の教育における出現                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 系統主義<br>（教科カリキュラム） | 文化遺産を系統的に学べる。<br>構成が簡単で評価もしやすい。<br>長い伝統があり教師も慣れている。                     | 教科書中心、理解より暗記になりやすい。<br>知識注入に偏り、社会性の育成・創造性の伸長を忘れがち。                       | 明治期から戦前まで<br>教育内容の現代化<br>基礎基本重視<br>学力低下論  |
| 経験主義<br>（経験カリキュラム） | 学習者の興味・問題から出発するので学習活動が活発で効果的になる。<br>生活の場に密接に結びつく。<br>自主的学習が民主的価値を発展させる。 | 現在の問題に関心が集中し、文化体系の習得が困難。<br>社会・文化の変化への対応が遅れがち。<br>学校や地域社会の体制が適切に整えられにくい。 | 戦後の新教育（社会科）<br>生活科<br>「新学力観」<br>総合的な学習の時間 |

※長所と短所は、田浦武雄（1986）「教育学概論」放送大学振興会、p 158-159をまとめた。

- **学習指導要領の変遷**

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%86%E3%81%A8%E3%82%8A%E6%95%99%E8%82%B2>

- **ゆとり教育**

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%86%E3%81%A8%E3%82%8A%E6%95%99%E8%82%B2>

# 学習指導要領の変遷

|                           |                                                                                                           | 実施時期 |      |      |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|
| 改定時期と<br>テーマ              | 主な改定内容                                                                                                    | 小学校  | 中学校  | 高校   |
| 1989(平成元)年<br>心の教育        | 文化と伝統を尊重<br>小学校低学年で「生活科」新設                                                                                | 92年度 | 93年度 | 94年度 |
| 98～99年<br>ゆとり教育           | 学習内容を削減<br>「総合的な学習の時間」新設<br>「1単位時間」など学校に裁量                                                                | 02年度 | 02年度 | 03年度 |
| 2008～09年<br>脱ゆとり教育        | 学習内容を1割増<br>小学校高学年で外国語活動<br>「総合的な学習の時間」削減                                                                 | 11年度 | 12年度 | 13年度 |
| 17～18年<br>アクティブ・<br>ラーニング | 「主体的・対話的で深い学び」<br>(アクティブ・ラーニング)による<br>授業改善<br>小学校でプログラミング必修化<br>小学校高学年で英語を教科化<br>高校の必修科目に「公共」「歴史<br>総合」新設 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |

1998年 「基礎・基本を確実に」「自ら学び自ら考える力などの生きる力」

2003年 確かな学力(一部改訂)

2008年 「生きる力」「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランス」ゆとりでも詰め込みでもない「生きる力」

2015年 道徳の特別教科化(一部改訂)

2017年 「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)

## 近年の学習指導要領の変遷 毎日新聞・記者の記録より

<https://mainichi.jp/articles/20181120/ddm/010/040/003000c>

# 新学習指導要領の背景

## 「社会人基礎力」 社会人基礎力1.0(2006年 経済産業省)

|                           |              |                          |
|---------------------------|--------------|--------------------------|
| 1.前に踏み出す力<br>(アクション)      | ①主体性         | 物事に進んで取り組む力              |
|                           | ②働きかけ力       | 他人に働きかけ巻き込む力             |
|                           | ③実行力         | 目的を設定し確実に行動する力           |
| 2.考え抜く力<br>(シンキング)        | ④課題発見力       | 現状を分析し目的や課題を明らかにする力      |
|                           | ⑤計画力         | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 |
|                           | ⑥創造力         | 新しい価値を生み出す力              |
| 3.チームで<br>働く力<br>(チームワーク) | ⑦発信力         | 自分の意見をわかりやすく伝える力         |
|                           | ⑧傾聴力         | 相手の意見を丁寧に聴く力             |
|                           | ⑨柔軟性         | 意見の違いや立場の違いを理解する力        |
|                           | ⑩状況把握力       | 自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力   |
|                           | ⑪規律性         | 社会のルールや人との約束を守る力         |
|                           | ⑫ストレスコントロール力 | ストレスの発生源に対応する力           |



# 今までの「社会人基礎力」とは

経済産業省が主催した有識者会議により、**職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(= 3つの能力・12の能力要素)」**として定義。

## 前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

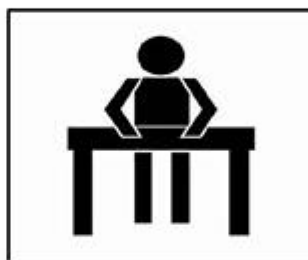
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

## 考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

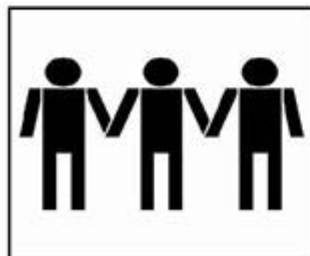
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

## チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力



# 「人生100年時代の社会人基礎力」の「気づき」の設定

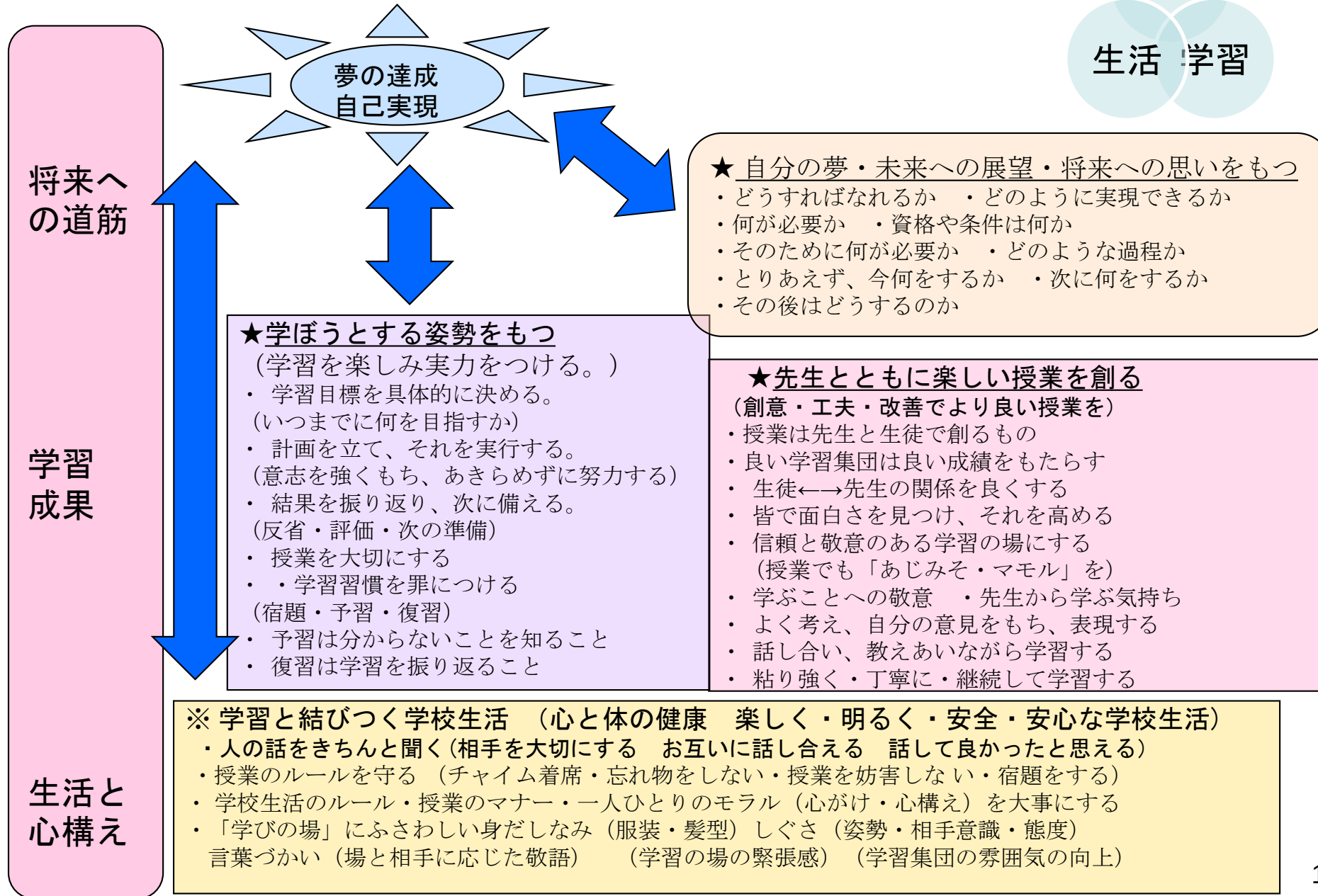
個々人がキャリアオーナーシップにもとづき、自らが持つ・持たざる能力や体験をリフレクション（振り返り）するため、**ライフステージの各段階で意識することが求められる“問い”**を示すことが有用。

|                      | 就学前教育<br>幼稚園教育要領<br>保育所保育指針           | 初等中等教育<br>学習指導要領                                                  | 高等教育<br>大学設置基準等                           | 教育と社会との関係の接続<br><br>(これまでの重点) | 新人 社会人<br>社会人基礎力<br>(2006)                            | 中堅 社会人                                                               | 中高年 社会人                                                       |
|----------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 何を<br>学ぶか<br>【学び】    | ・学びに向かう力が<br>ついているか                   | ・主体的に自己を<br>発揮しながら学<br>びに向かう態度<br>はついているか                         | ・どんな専門分野<br>を修めて社会で<br>活躍するための<br>礎とするか   |                               | ・自らが付加価値<br>を生み出すため<br>の学びはなにか<br>・学びの広さや深<br>さを得られるか | ・強みを伸ばし、<br>弱みを克服する<br>学びはなにか<br>・社会や技術の<br>変化に対応す<br>るための学びは<br>なにか | ・持続的に活躍し<br>続けるために必要<br>な学びはなにか<br>・経験等を引き継<br>ぐための学びはな<br>にか |
| どのように<br>学ぶか<br>【統合】 | ・大人との触れ合<br>いは十分か<br>・他者との関わりは<br>十分か | ・学校種間の連携<br>や交流は十分か<br>・共に尊重し合い<br>ながら協働して<br>生活していく態度<br>はついているか | ・年代、地域、文<br>化などを超えた多<br>様な人と関わって<br>いるか   |                               | ・多様な人と出会<br>い、視野を広く<br>持ち、多様な機<br>会を得ているか             | ・多様な人との関<br>係性を構築し、<br>価値の創出に<br>向けて組み合わ<br>せているか                    | ・多様な人との関<br>係性を活用し、<br>活躍の場や活動<br>の領域をこれまで<br>より広げているか        |
| どう<br>活躍するか<br>【目的】  | ・よりよい生活を営<br>もうとしているか                 | ・自分のよさや可<br>能性を認識して<br>いるか                                        | ・得手不得手を踏<br>まえて、企業・社<br>会とどのように関<br>わりたいか |                               | ・組織や家庭との<br>関係でどんな自<br>分でありたいか                        | ・自己実現するた<br>めにどのような行<br>動が必要か                                        | ・これまでの経験を<br>踏まえ自らが社<br>会に提供できる<br>価値はなにか                     |
| 3つの能力<br>12の能力要素     | リフレクション（振り返り）                         |                                                                   |                                           |                               | リフレクション（振り返り）                                         |                                                                      |                                                               |
|                      | ・主体的・対話的で深い学び<br>・キャリア教育の充実           |                                                                   |                                           |                               | ・多様な経験の積み重ね<br>・リフレクションと多様なフィードバックの積み重ね               |                                                                      |                                                               |
|                      | 教育や体験活動を通じた育成／育成の支援                   |                                                                   |                                           |                               | 仕事や地域での実践を通じた深化／研鑽環境の整備                               |                                                                      |                                                               |

# ライフ・マネジメント力の育成

進路

生活 学習





1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

## 学校ver.1.0（「勉強」の時代）

◆教育のリソース（教師、教材、場所）を学校が独占し、全員が決められた時間に一律に授業を受け、知識再生型のペーパーテストで成果を測定。

◆カリキュラムは知識の体系（典型が、国語の学年別漢字配当表）。

◆重視されたのは、知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、あらかじめ定められた計画を着実にこなす正確さ。

◆教員の授業研究による教育方法工夫・改善の自主的な蓄積に依存

## 学校ver.2.0（「学習」の時代）

◆日本の学校教育の蓄積を活かしつつ、能動的な学び手（アクティブ・ラーナー）を育成する「主体的・対話的で深い学び」。

◆5肢択一偏重の大学入試から記述式を導入した考える入試への転換など高大接続改革。

◆カリキュラムは能力重視の体系へと転換。（語彙を表現に活かす、科学的に思考する、数学を日常生活に活かす...といった認知的能力とその土台となる学習意欲や協働しようとする態度を重視）

◆重視されているのは、自分自身の文脈で情報を編集し、協働・対話を通じて新しい価値や「納得解」を生み出す力。

学習指導要領2017年改訂

## 学校ver.3.0（「学び」の時代）

## 「K-12教育」から「K-16プログラム」へ

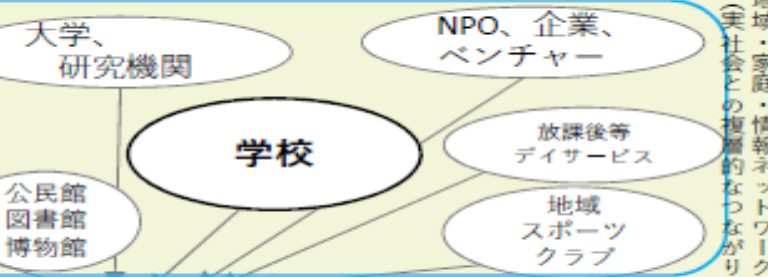
- ・次世代型学校においては、教育プログラムを個別最適化した「学び」へ
- ・K-16のグレードは学年ではなく能力のレベル。人生100年時代のリカレント教育を前提とした教育の仕組みへ
- ・K-16プログラムは、次世代型学校を軸に大学、NPO、企業など様々な主体がそれぞれの強みを活かして提供

STEAM重視のプログラムにおける他者との協働を通じた価値創出のための学び（体験重視）

人間としての強みを活かした専門職になるための学び（実習体験重視）

・より分析的・批判的に思考するための見方・考え方の深化  
・社会の中での自分の役割や責任についての自覚を軸にした学びの展開  
・実体験を通じた他者・社会との協働の手応えや自信

・語彙、読解力、数的感覚などの学力の基礎  
・実体験を通じた他者とともに生きることを実感  
・未知の世界に挑戦する好奇心  
・苦心してモノを作り上げる力



「能動的な学び手」  
（アクティブ・ラーナー）

「個別最適化された学びのまとめ役」  
（フーニング・オーガナイザー）  
個々の子供の学びと授業における協働学習のデザインとプロデュース（新たな公教育の役割）

## 個別最適化された学びと学びのポートフォリオ

- ◆公教育の重要な役割は、子供の学びの状況を観察し、個々人に応じた学びの実現を支援
- ◆次世代型学校を軸に、大学、NPO、企業などが提供する様々なプログラムを選択して学ぶユビキタス・ラーニング（※）
- ◆学校は、実体験や他者との対話・協働をはじめ多様な学習活動の機会を公正に提供する役割を重視
- ◆個人の学習成果（作文、作品、レポート、プレゼン等）は学びのポートフォリオとして電子化、蓄積

個人の認知と性向の特性を踏まえた支援  
（認知科学と教育ビッグデータの活用）  
※ビッグデータのリスクや限界にも留意

教育ビッグデータの収集・分析（総合的なエビデンス）

スタディ・ログ（学習の履歴）

自治体間や国との連携

研究機関・企業との連携

※ユビキタス・ラーニング：いつでもどこでも学習できること

コミュニティ・ソリューション（人や地域のつながりが課題解決）

国民国家モデル

マーケット・ソリューション（市場が課題解決）

グローバル市場経済モデル

持続可能な開発モデル

ガバメント・ソリューション（政府が課題解決）

人間存在としての基本的な価値や人格形成（善く生きるとは、個人と他者、社会との関わり方…）



# 新しい学力（観）・評価（観）の理解が必要！

- 学習指導要領の求める方向性とその対応
- 新しい時代の資質・能力は①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等
- 自ら主体的に生きる力
- 批判・批評的に吟味する力
- 自己認識力、自己評価力
- 自己肯定感・他者理解と共感
- 想像力と創造力
- コミュニケーション力

- 評価の観点 すべての教科等の観点が統一

## 【求める力の明確化】

- 知識・技能

←知識・理解／技能

- 思考・判断・表現

←各教科で異なる観点

- 主体的に学習に取り組む態度

←関心・意欲・態度

※ 似ているようで異なる

# 観点別学習状況の評価の観点の整理



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

<現行>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



<新>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

# 主体的・対話的で深い学びのために

## 【主体的な学び】 「関心・意欲・態度」との違い

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び(学びの調整)が「主体的な学び」として実現できているか。

## 【対話的な学び】 単なる「話し合い活動」ではない

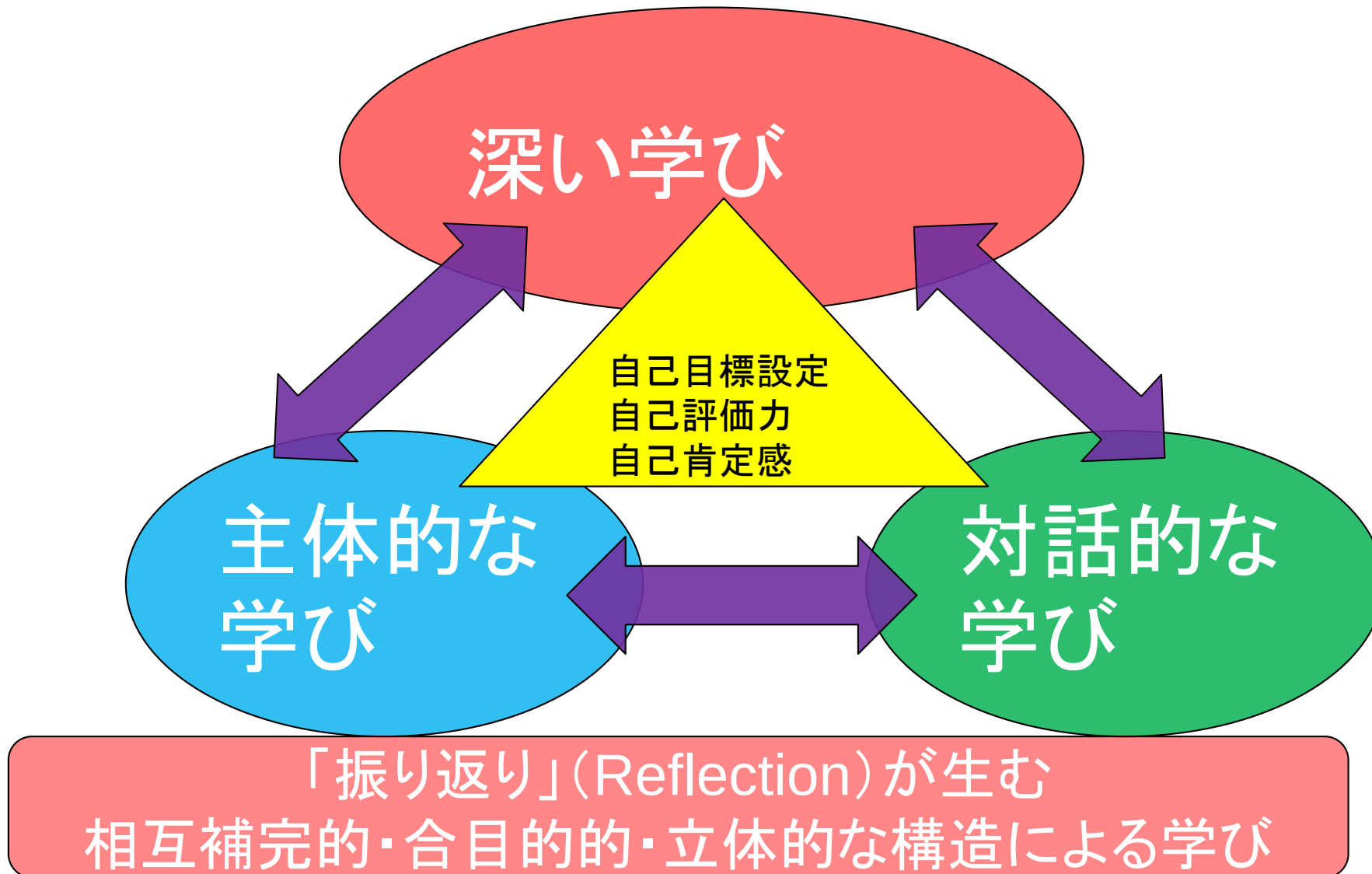
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

## 【深い学び】学習(知識・技能・思考・判断・表現)をより深める

習得・活用・探究という学びの過程の中で、教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。思考・判断・表現を通し、学習内容の深い理解につなげる「学び」の実現。



# 「主体的・対話的で深い学び」の関係



「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

## 各教科における評価の基本構造



各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力, 判断力, 表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

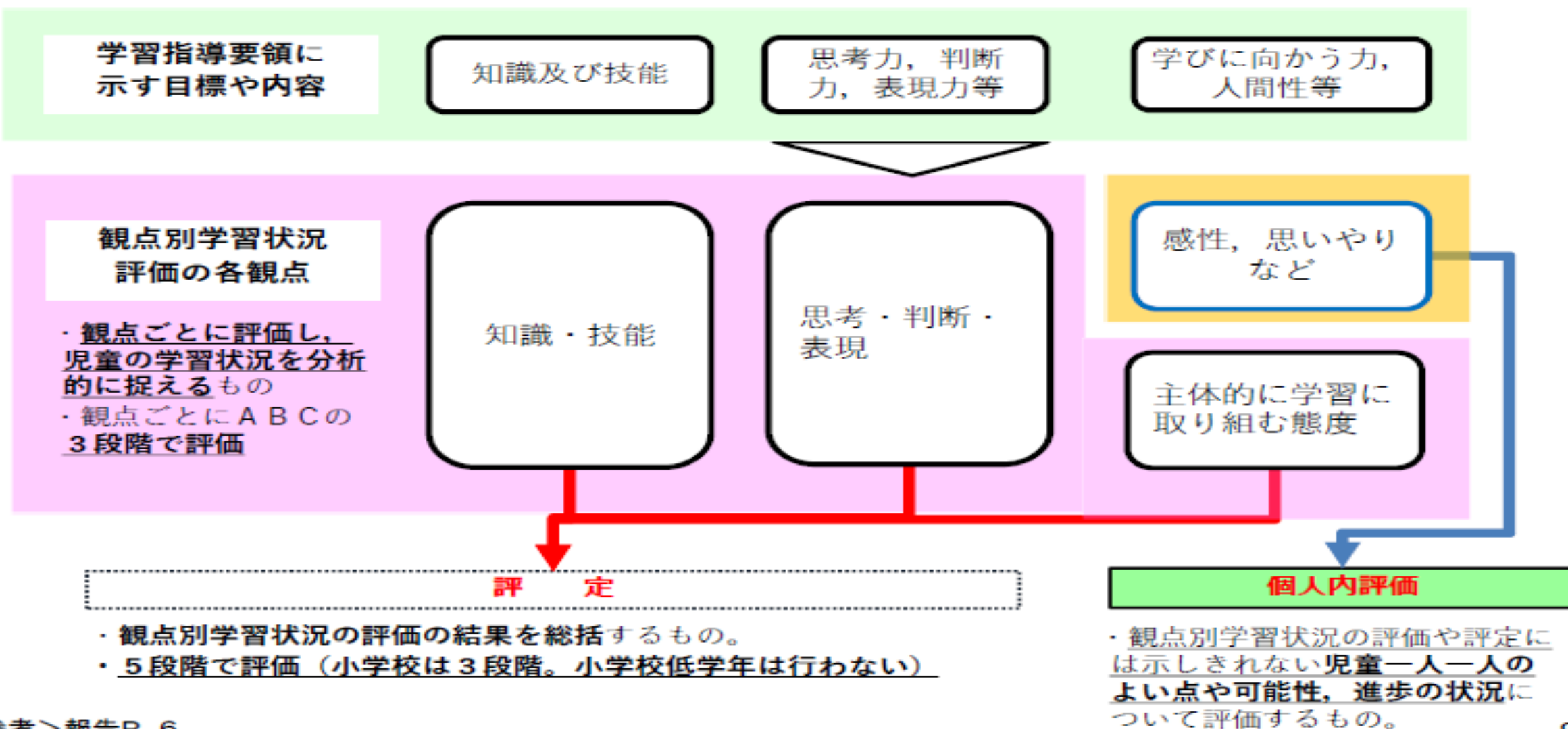
知識及び技能を獲得したり, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けたりするために, 自らの学習状況を把握し, 学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら, 学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

個人内評価の対象となるものについては, 児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう, 日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要です。特に, 「学びに向かう力, 人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性, 進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要です。

# 各教科における評価の基本構造



- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。





# 国語科における評価の基本構造

## 新学習指導要領 2 内容

知識及び  
技能

- (1) 言葉の特徴や使い方
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方
- (3) 我が国の言語文化

思考力・  
判断力・  
表現力等

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

領域名で

評価(評価規準)

知識・技能  
~している

思考・判  
断・表現  
~している

個人内  
評価

## 新学習指導要領 1 目標(3)

学びに向かう力、人間性等

主体的に学習  
に取り組む態度  
~しようとしている

感性  
思いやり  
など

# 「知識・技能」の評価

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・「知識・理解」(各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価)
  - ・「技能」(各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価)
- においても重視。

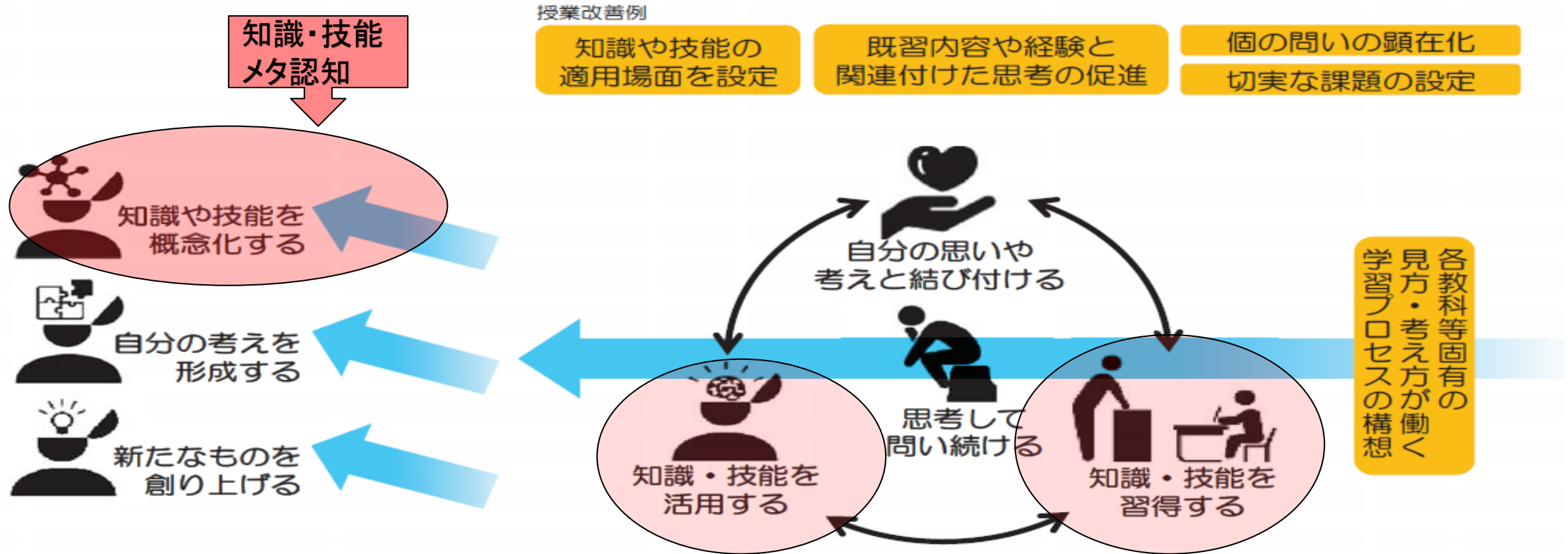
## ＜評価の工夫(例)＞

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
  - ・ 児童生徒に文章により説明をさせる。
  - ・ (各教科等の内容の特質に応じて、) 観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

# 知識・技能と思考・判断・表現の評価

## 評価規準 ～している(学習行為で判断)

「深い学び」を実現する子供のイメージ例



(必ずしも一方通行、順序性のある流れではない)



# 「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

## ＜評価の工夫（例）＞

- 論述やレポートの作成，発表，グループでの話し合い，作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

# 思考・判断・表現の評価

## 評価規準 ～している(学習行為で判断)

「対話的な学び」を実現する子供のイメージ例

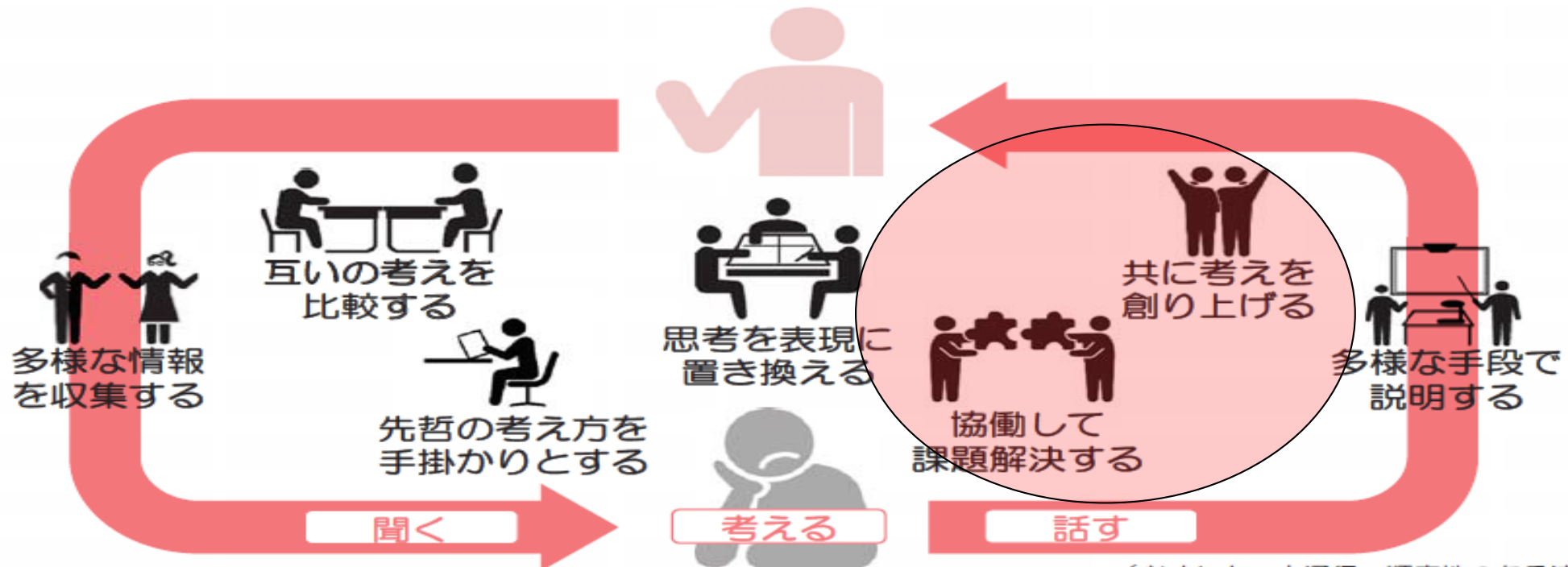
授業改善例

対話する必然性のある課題の設定

学習内容等に応じたグループサイズの運用

情報の可視化・操作化など思考を深めるツール等の運用

話を聞き合える関係性の構築



(必ずしも一方通行、順序性のある流れではない)

# 主体的に学習に取り組む態度の評価

## 評価規準 ～している ～しようとしている

「主体的な学び」を実現する子供のイメージ例

授業改善例

個の問いを顕在化する工夫

試行錯誤できる学習環境

学習内容のまとめ・適用

切実感のある課題設定

多様な学び方の提供

文字言語での振り返り

学びに向かう力を  
刺激する  
様々な工夫



興味や関心  
を高める



見通しを  
持つ



自分と  
結び付ける

学ぶ対象

- ・ 実社会や実生活に関わる主題の積極的な導入
- ・ 体験活動の充実とその成果とのつながり

学んだ  
手ごたえ



振り返って  
次へつなげる



粘り強く  
取り組む

(必ずしも一方通行、順序性のある流れではない)

学ぶ「意欲」から、学ぶ「意志」へ



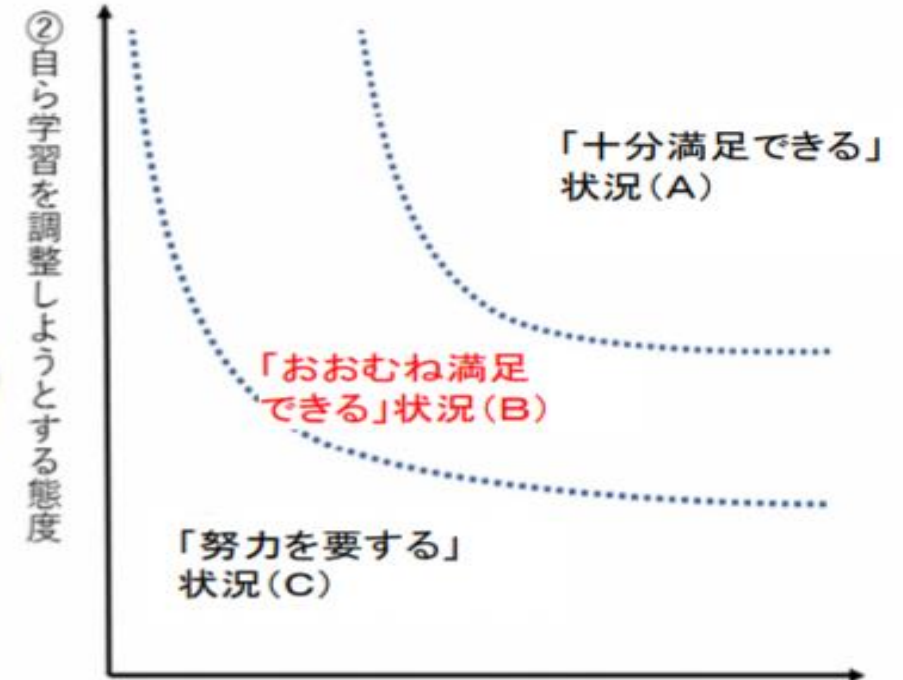
# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

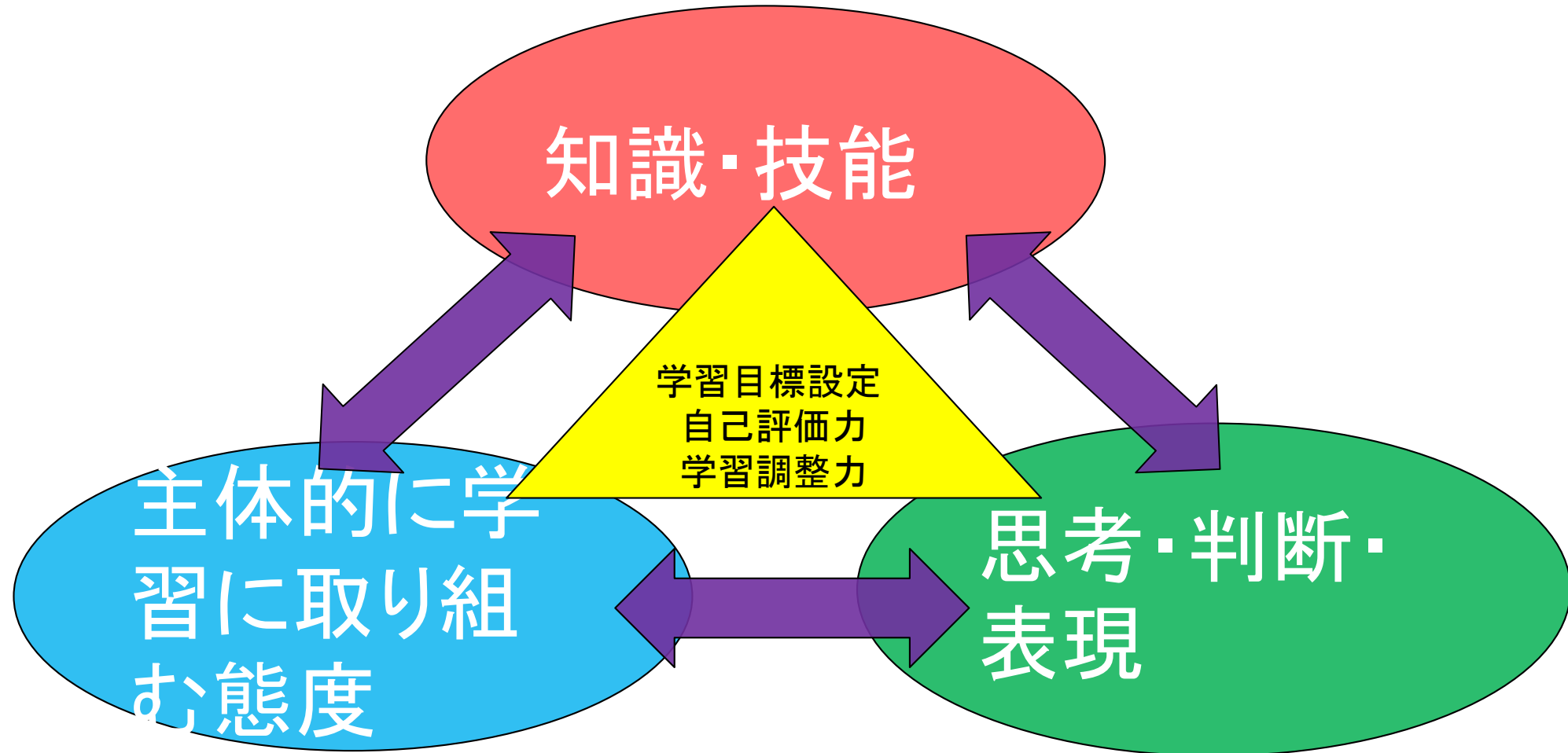
## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



# 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の関係



「学習目標設定」と「振り返り」(Reflection)が促す  
自主的・自律的・主体的な学び

## 認識(感性・理性)の中核としての言語

知識・技能  
(受容・概念化)  
コンピテンシー

学びに向かう力・  
人間性  
学習力・人間力

思考力・  
判断力・  
表現力

- ・ 言語の価値・意義・機能の理解
- ・ 言語の特徴や規範の理解と使い分け
- ・ 話す・聞く・話し合う・書く・読む 5技能の習得
- ・ 言語の使い方や活用の仕方の理解と習熟  
(話し方・聞き方・話し合い方・書き方・読み方 表現の工夫)
- ・ 言語文化・歴史的・社会的背景・コンテンツ(内容)の理解

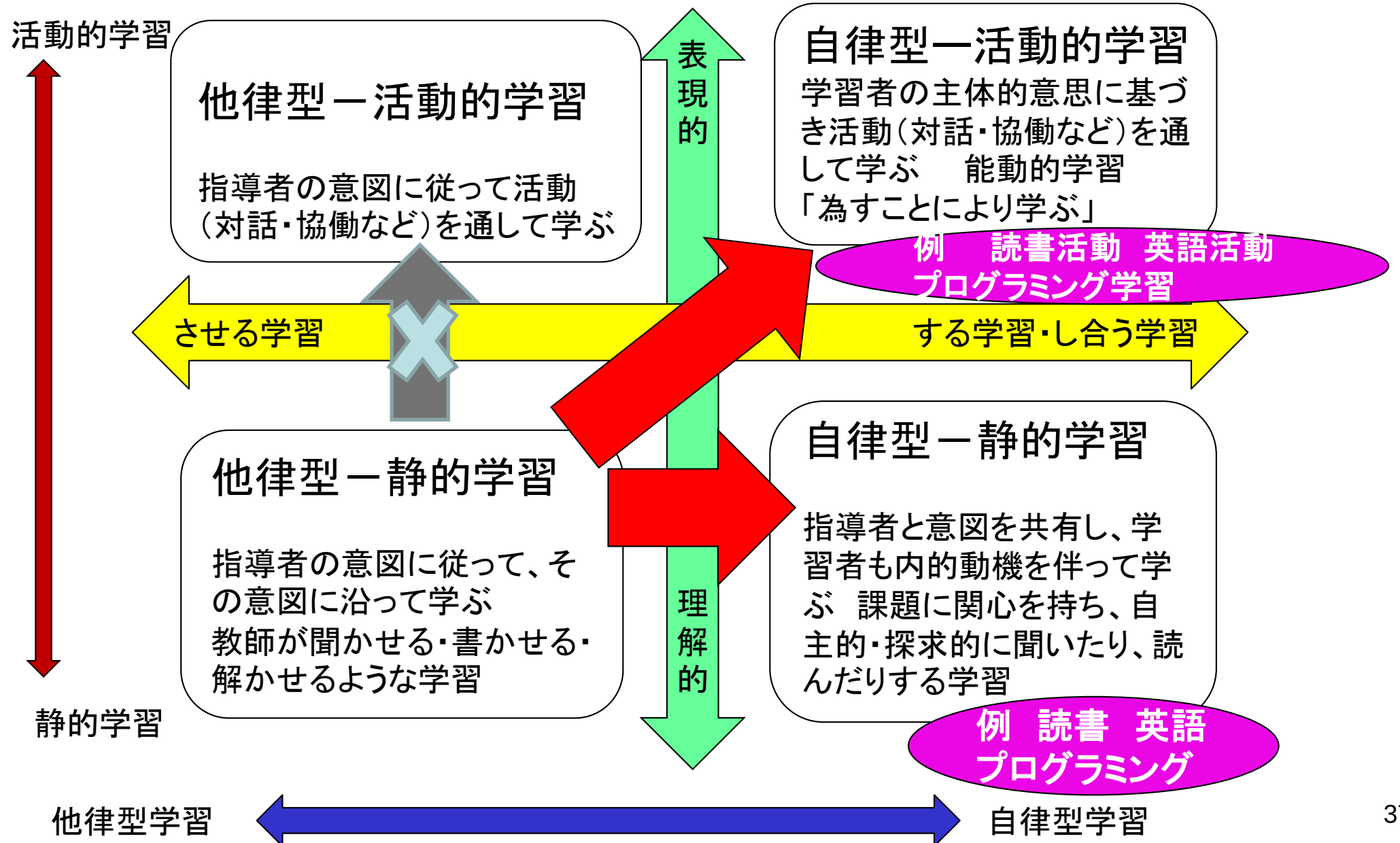
- ・ 言語で課題や困難を克服し、言語を通して社会や文化を創造しようとする力
- ・ 言語を通して自己の認識(ものの見方や考え方)を広げ深めようとする態度
- ・ 言語を通して他者や社会と関り、自己を表現し、他者を理解し尊重しようとする態度

- ・ 情報を多面的・多角的・多重的に理解し、精査・構造化する力
- ・ 構成・内容・表現形式を吟味し評価する力
- ・ 言語を通して相手の感情や感性、理論や論理を把握し、自己の認識に生かし、より豊かにする力
- ・ 自己の認識(感情・思い・意見)を言語化する力
- ・ 言語を通して伝えあい、理解し合う力
- ・ 言語により自己を理解し、考えを形成し、より深める力

**言語を理解し、活用することで、自己の認識を広げ、人生を豊かにするとともに、社会と文化の発展に寄与する。**



# 自律と意思の学習(する学習・し合う学習)へ



創造  
制作  
実践  
発展  
応用  
活用  
技能  
技術  
知恵  
理解  
知識

応用的学習

Ⅲ層 「転」の学び  
伝・教の学び  
(伝え合う・教え合う)  
面から立体へ

発表・討議・協議・共有

Ⅳ層 「結」の学び  
創・探の学び  
(創り出す・生み出す)  
立体から現実世界へ

創造・創作・探究・開発

基礎・確認・共有的な学び

活用的・発展的・探究的な学び

Ⅰ層 「起」の学び  
知の学び  
(知る・つかむ)  
点から線へ

事実・状況・概要把握

Ⅱ層 「承」の学び  
理の学び  
(分かる・考える)  
線から面へ

分析・総合・関連・変化

基礎的学習

確かめる学習

深める学習

社会に開かれた教育課程の方向

発達の段階に応じたレベルを踏まえた指導

## ① 体験から感じ取ったことを表現する

(例) ・ 日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

## ② 事実を正確に理解し伝達する

(例) ・ 身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

## ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例) ・ 需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす  
・ 衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

## ④ 情報を分析・評価し、論述する

(例) ・ 学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する  
・ 文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する  
・ 自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする  
・ 自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

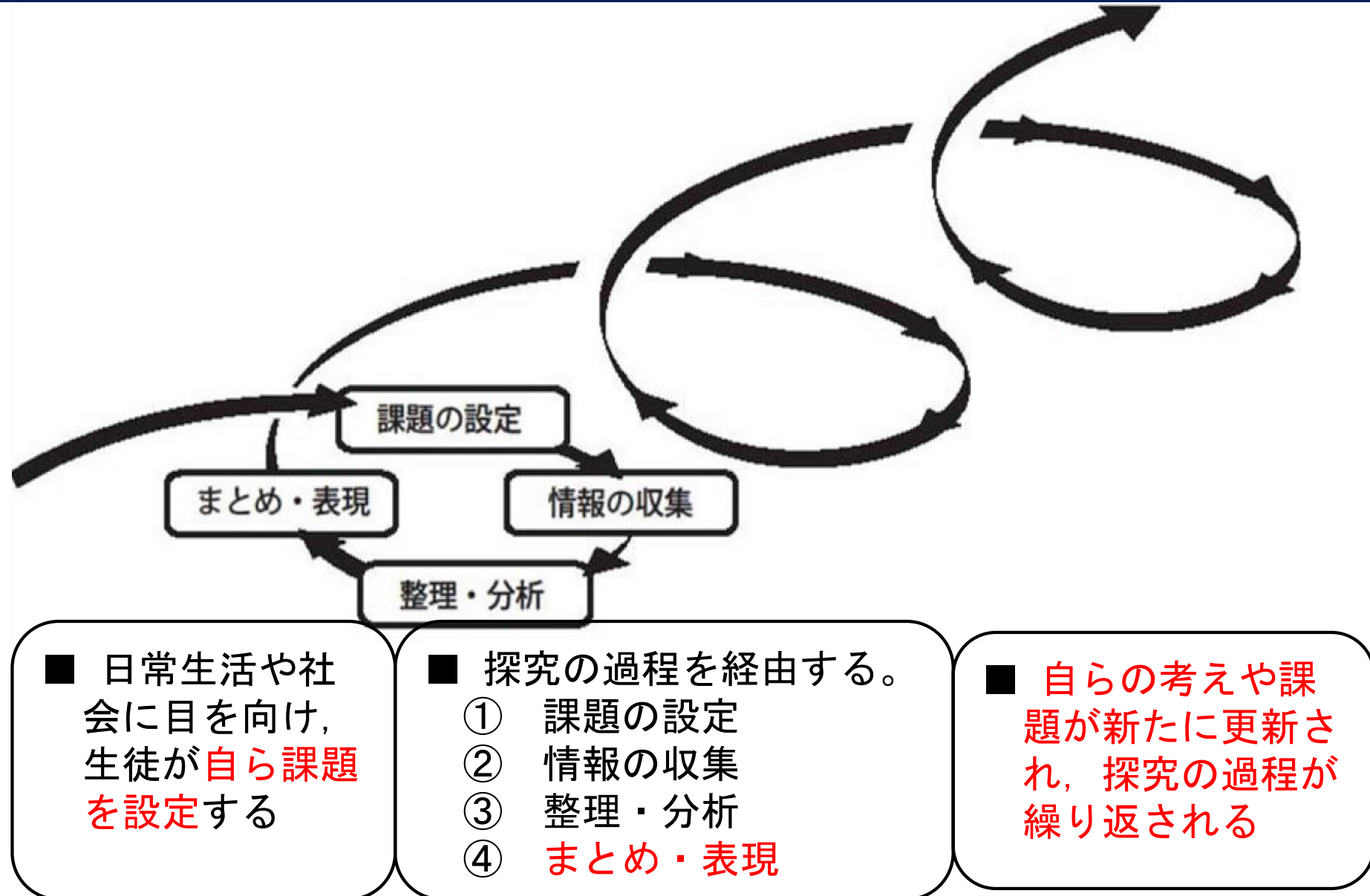
## ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例) ・ 理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする  
・ 芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

## ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

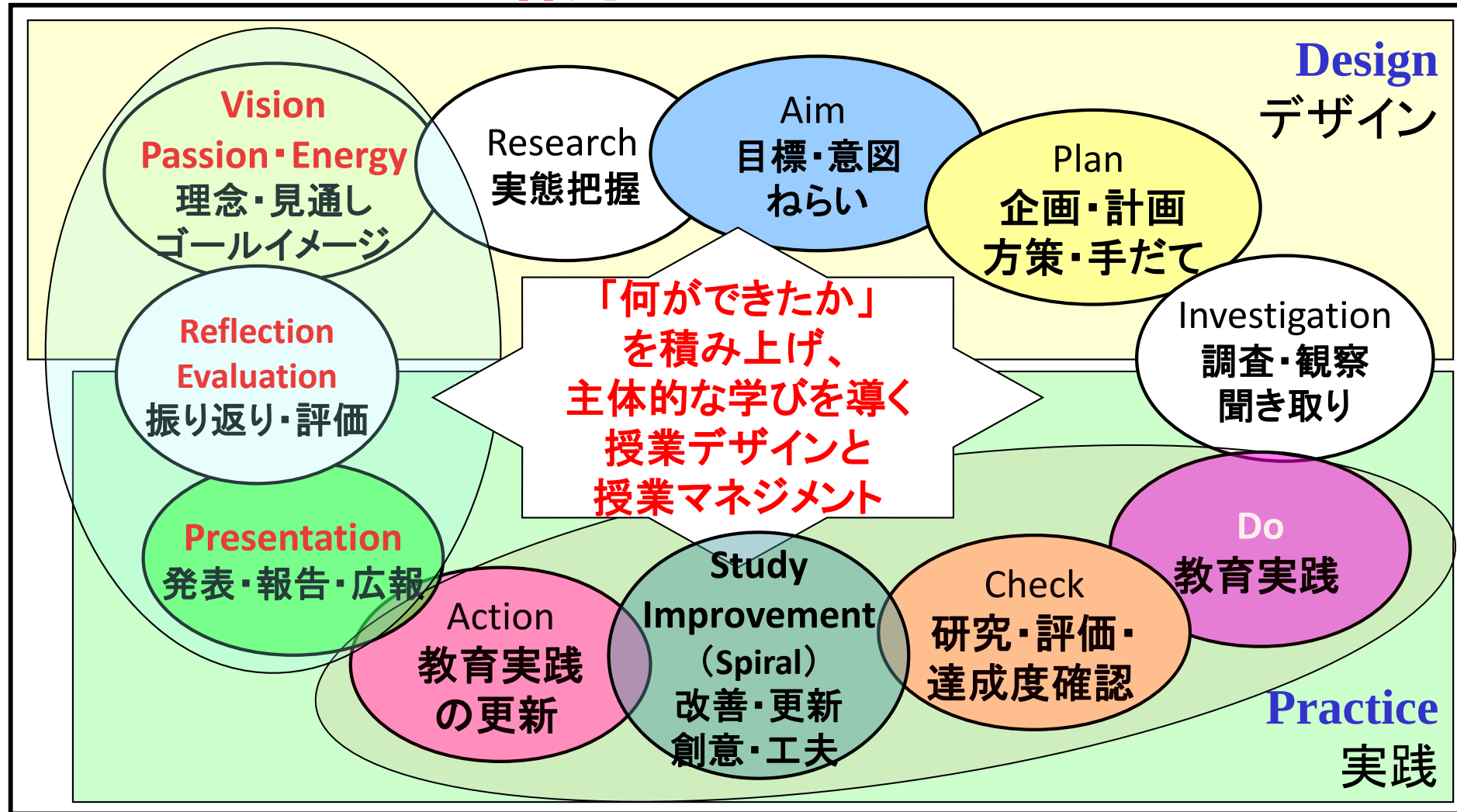
(例) ・ 予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う  
・ 将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

## (参考) 総合的な学習の時間における 探究的な学習における児童・生徒の学習の姿





# 生徒の「学び」の力を高める学びのデザインとマネジメント・サイクルの活用



指導から「学び」へ このマネジメント・サイクルを生徒の「学び」に活かす

# 生徒の「学び」を育むカリキュラム・デザイン とカリキュラム・マネジメント(学習者)

ねらい:何ができるようになれば良いか  
自己の目的に基づく目標設定

振り返り:何が分かり、何が  
でき、何が身についたか  
成果 コンピテンシー重視

自己の能力・可能性をどのように高めるか 指導者の活用  
(自己の発達特性や傾向の理解と必要な支援の自覚と要請  
質問の必要性和重要性 回答による自分の考えの深化  
・配慮を必要とする場合の依頼や支援の要請  
バリアフリーやユニバーサルデザインの発想)

何を学びたいか・何が必要か  
(内容・課題・見通し)  
学習指導要領の指導内容・指導事項  
を踏まえ、**学習内容と学習事項を理解**  
(シラバスに基づく**見通しとその確認・評価**)

どのように学ぶか どう学ぶか  
(計画・実践・評価・方法確認・実践改善)  
学びのサイクルの確立  
主体的・対話的・深い学びの自覚

環境:実施するために何が必要か (学校・家庭・地域の支援 相互理解・協働・共生)  
教育諸条件の整備 教育格差の是正 ICTの活用と条件整備  
コンピュータによる学習や学校・保護者・地域(公共施設等)の学習支援

# 「主体的に学習に取り組む態度」を促す評価

## ① 思考・判断・表現の評価(B問題系 点数化)

知識・理解・技能及びそれを活用した課題探究型学びの評価

脱・正解の評価

## ② パフォーマンス評価(結果 アウトカム)

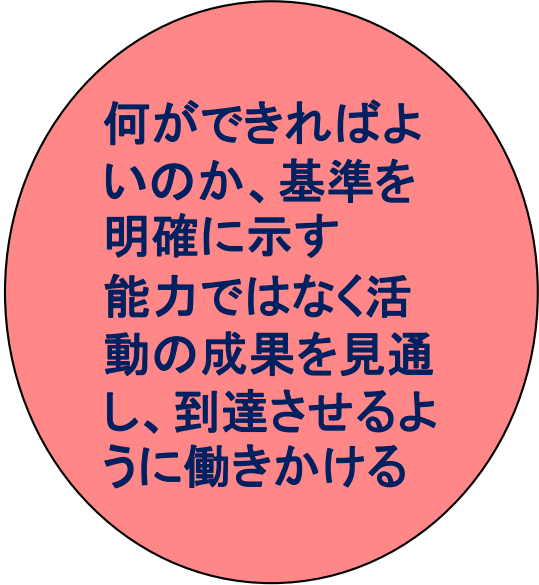
実際の作品・発表・演技などの質を段階で評価(A～D等)

## ③ ルーブリック Rubric 評価

例 A(優秀)・B(合格 評価規準)・C(不十分)・D(評価不可)  
＋一等 12段階の評価が可能(点数化ではなく段階)  
どのような状態か学習者に基準(Standard)を示す

## ④ ポートフォリオ Portfolio 評価(プロセス)

学習活動の過程や途中成果の記録や作品を集積  
目標や基準の確認・集積と選択・振り返りと確認・検討



何ができればよいのか、基準を明確に示す  
能力ではなく活動の成果を見通し、到達させるように働きかける

育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容  
と評価の在り方に関する検討会(第8回)  
平成25年8月30日配付資料を一部改訂  
(西岡加名恵委員)

## パフォーマンス評価

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを  
求めるような評価方法(問題や課題)の総称。多くの場合、「選択  
回答式(客観テスト式)の問題」以外の評価方法を指す。

単純

### 選択回答式(客観テスト式)の問題

- ・多肢選択問題
- ・正誤問題
- ・順序問題
- ・組み合わせ問題
- ・穴埋め問題(単語・句)

### 自由記述式の問題

- ～ 短答問題(文章・図表・図表など)
- ・知識を与えて推論させる問題
  - ・作問法
    - ・ 図形的推論法
  - ・予測・観察・説明(POE)法
  - ・概念マップ法
    - ・ ベン図法
  - ・運勢ライン法
    - ・ 描面法

一枚ポートフォリオ評価

### パフォーマンス課題

- ・エッセイ、小論文、説明文
- ・研究レポート、研究論文
- ・実験レポート、観察記録
- ・物語、脚本、詩、曲、絵画
- ・歴史新聞

- ・朗読、口頭発表、プレゼンテーション
- ・グループでの話し合い、ディベート
- ・実験の計画・実施・報告
- ・演劇、ダンス、曲の演奏、彫刻
- ・スポーツの試合

プロジェクト

### 活動の断片的な評価

- ・発問への応答
- ・活動の観察

### 実技テストの項目

- ・検討会、面接、口頭試問
- ・短文の朗読
- ・実験器具の操作
- ・漢字練習
- ・運動技能の実演

実演

筆記

ポートフォリオ評価

学習の過程や成果を示す様々な記録を  
系統的に蓄積し、編集したり検討会を  
行ったりしながら評価していく方法

複雑

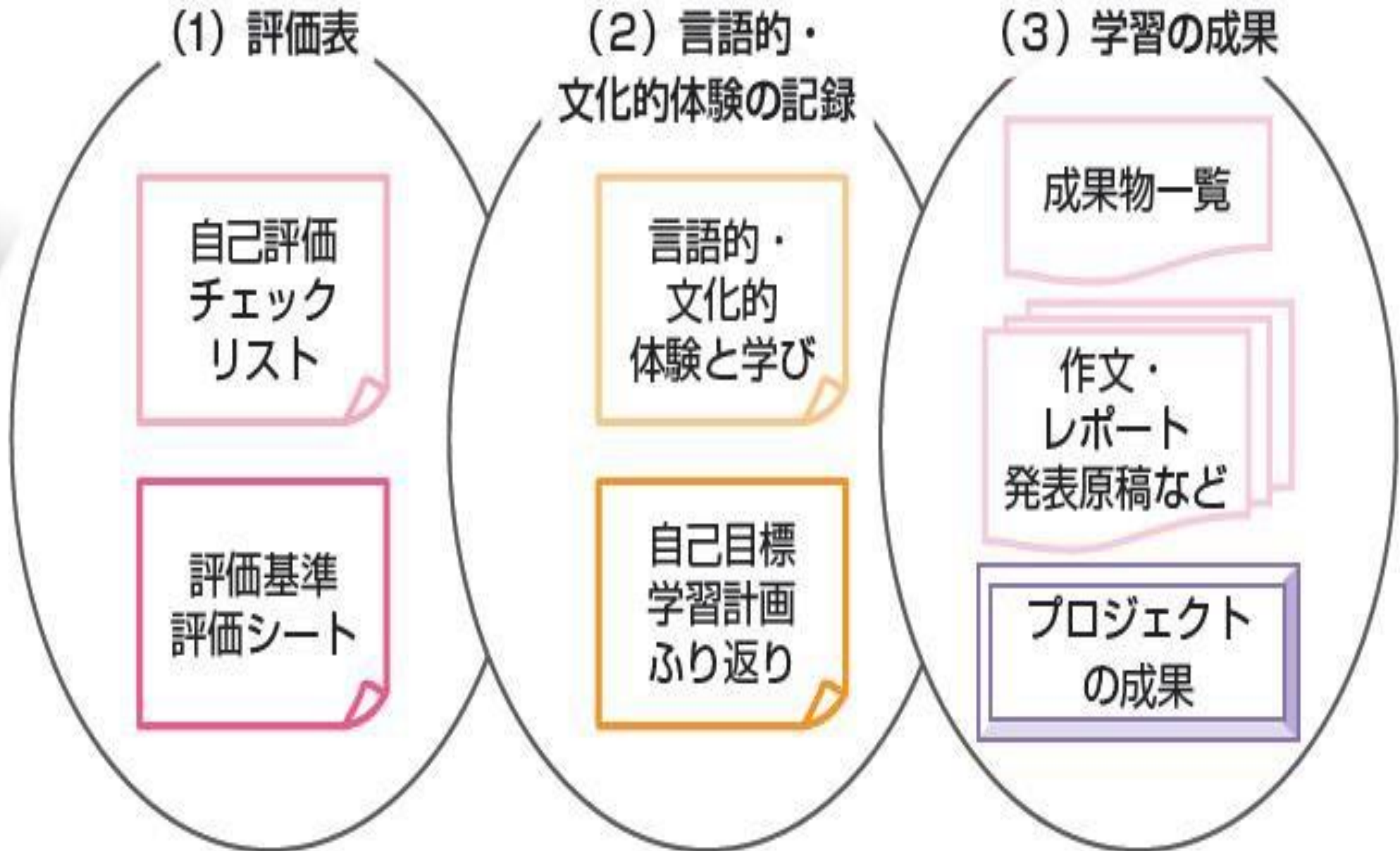
(西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評  
価・中学校』学事出版、2009年、p.9の図を一部改訂)



# ルーブリック評価指標 (基準 Standard)の作成 例

| 観点(例)  | 内容                   | A(優良)＋                    | B(規準)＋                  | C(不十分)＋                  | D(評定不可)                   |
|--------|----------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 問題の把握  | 教科書を読み、課題を把握する       | きちんと把握しており内容も正確           | ほぼ把握している                | 不十分である<br>改善の余地が多い       | 参加していない<br>全くできていない       |
| 予想の質   | 自分の予想を立てる            | 理由も含めてきちんとした予想が立てられた      | 一応予想している<br>根拠を十分示していない | 予想の意味を把握しないため不十分である      | 予想を全く立てていない<br>学習に参加しない   |
| 学習活動の質 | グループで活動する            | 主体的に取り組む協働意識も高い           | 自分の考えはあるが、やや周りに迎合しがち    | 学習活動の質が自他ともに不十分          | 学習活動に参加せず、全く取り組んでいない      |
| 作品の質   | 自己評価・相互評価・教師評価・第三者評価 | すばらしい作品であり、発表内容も説得的で優れている | 一定水準の作品はできたが、まだ改善の余地はある | 作品の質が今ひとつであり、一層の努力や工夫が必要 | 作品を提出していない、あるいは提出日に間に合わない |

# ポートフォリオ評価



# サステイナブルな教育を目指して とりあえず、国際的な指標を重視

- OECD Education

<https://www.oecd.org/education/>

- OECD Online Education Database

<https://www.oecd.org/education/database.htm>

- OECD Japan

<https://www.oecd.org/japan/>

- Pisa Programme for International Student Assessment

<http://www.oecd.org/pisa/>

- 母語の強化 英語及び外国語(母語以外の言語)との付き合い方  
一ク等の活用 <https://pocketalk.jp/>

ポケット

# Pisa 調査が示すもの

## ● 全参加国・地域(79か国・地域)における比較

【□】は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

|                    | 読解力         | 平均<br>得点 | 数学的リテラシー          | 平均<br>得点 | 科学的リテラシー          | 平均<br>得点 |
|--------------------|-------------|----------|-------------------|----------|-------------------|----------|
| 1                  | 北京・上海・江蘇・浙江 | 555      | 北京・上海・江蘇・浙江       | 591      | 北京・上海・江蘇・浙江       | 590      |
| 2                  | シンガポール      | 549      | シンガポール            | 569      | シンガポール            | 551      |
| 3                  | マカオ         | 525      | マカオ               | 558      | マカオ               | 544      |
| 4                  | 香港          | 524      | 香港                | 551      | エストニア             | 530      |
| 5                  | エストニア       | 523      | 台湾                | 531      | 日本                | 529      |
| 6                  | カナダ         | 520      | 日本                | 527      | フィンランド            | 522      |
| 7                  | フィンランド      | 520      | 韓国                | 526      | 韓国                | 519      |
| 8                  | アイルランド      | 518      | エストニア             | 523      | カナダ               | 518      |
| 9                  | 韓国          | 514      | オランダ              | 519      | 香港                | 517      |
| 10                 | ポーランド       | 512      | ポーランド             | 516      | 台湾                | 516      |
| 11                 | スウェーデン      | 506      | スイス               | 515      | ポーランド             | 511      |
| 12                 | ニュージーランド    | 506      | カナダ               | 512      | ニュージーランド          | 508      |
| 13                 | アメリカ        | 505      | デンマーク             | 509      | スロベニア             | 507      |
| 14                 | イギリス        | 504      | スロベニア             | 509      | イギリス              | 505      |
| 15                 | 日本          | 504      | ベルギー              | 508      | オランダ              | 503      |
| 16                 | オーストラリア     | 503      | フィンランド            | 507      | ドイツ               | 503      |
| 17                 | 台湾          | 503      | スウェーデン            | 502      | オーストラリア           | 503      |
| 18                 | デンマーク       | 501      | イギリス              | 502      | アメリカ              | 502      |
| 19                 | ノルウェー       | 499      | ノルウェー             | 501      | スウェーデン            | 499      |
| 20                 | ドイツ         | 498      | ドイツ               | 500      | ベルギー              | 499      |
| 信頼区間※(日本): 499-509 |             |          | 信頼区間(日本): 522-532 |          | 信頼区間(日本): 524-534 |          |

※灰色の国・地域は非OECD加盟国・地域を表す。

※信頼区間は調査対象者となる生徒全員(母集団)の平均値が存在すると考えられる得点の幅を表す。PISA調査は標本調査であるため、一定の幅をもって平均値を考える必要がある。

※同得点でも順位が異なるのは、小数点以下の数値の差異による。

PISA 2018: How are students doing? Andreas Schleicher highlights key findings from PISA 2018 – the test the whole world can take. [解説ビデオ](#)

[https://www.youtube.com/watch?time\\_continue=86&v=btPwlxLiPV8&feature=emb\\_logo](https://www.youtube.com/watch?time_continue=86&v=btPwlxLiPV8&feature=emb_logo)



## 結果概要

## &lt;PISA2018について&gt;

OECD(経済協力開発機構)の生徒の学習到達度調査(PISA)は、義務教育修了段階の15歳児を対象に、2000年から3年ごとに、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で実施(2018年調査は読解力が中心分野)。平均得点は経年比較可能な設計。前回2015年調査からコンピュータ使用型調査に移行。日本は、高校1年相当学年が対象で、2018年調査は、同年6～8月に実施。

## &lt;日本の結果&gt;

## 三分野

- ◆ 数学的リテラシー及び科学的リテラシーは、引き続き世界トップレベル。調査開始以降の長期トレンドとしても、安定的に世界トップレベルを維持しているとOECDが分析。
- ◆ 読解力は、OECD平均より高得点のグループに位置するが、前回より平均得点・順位が統計的に有意に低下。長期トレンドとしては、統計的に有意な変化が見られない「平坦」タイプとOECDが分析。

## 読解力

- ◆ 読解力の問題で、日本の生徒の正答率が比較的低かった問題には、テキストから情報を探し出す問題や、テキストの質と信ぴょう性を評価する問題などがあつた。
- ◆ 読解力の自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明することに、引き続き、課題がある。
- ◆ 生徒質問調査から、日本の生徒は「読書は、大好きな趣味の一つだ」と答える生徒の割合がOECD平均より高いなど、読書を肯定的にとらえる傾向がある。また、こうした生徒ほど読解力の得点が高い傾向にある。

## 質問調査

- ◆ 社会経済文化的背景の水準が低い生徒群ほど、習熟度レベルの低い生徒の割合が多い傾向は、他のOECD加盟国と同様に見られた。
- ◆ 生徒のICTの活用状況については、日本は、学校の授業での利用時間が短い。また、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャットやゲームに偏っている傾向がある。

## 読解力の定義

### 【読解力の定義】

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

#### ①情報を探し出す

- テキスト中の情報にアクセスし、取り出す
- 関連するテキストを探索し、選び出す

#### ②理解する

- 字句の意味を理解する
- 統合し、推論を創出する

#### ③評価し、熟考する

- 質と信ぴょう性を評価する
- 内容と形式について熟考する
- 矛盾を見つけて対処する

測定する能力

## 日本の生徒の正答率が低い問題の一例

◆課題文1: 企業のWebサイト  
(商品の安全性を宣伝)

問1: 字句や内容を理解する

問2: 記載内容の質と信ぴょう性を評価する(自由記述)

◆課題文2: オンライン雑誌記事  
(商品の安全性について別の見解)

問3: 課題文の内容形式を考える

問4: 必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し探し出す【測定する能力①情報を探し出す】

◆課題文1と2を比較対照

問5: 両文章の異同を確認する

問6: 情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する(自由記述)

【測定する能力③評価し、熟考する】

## 読解力分野のコンピュータ使用型調査の特徴

2018年調査は、全小問245題のうち約7割の173題がコンピュータ使用型調査用に開発された新規問題。オンライン上の多様な形式を用いた課題文(投稿文、電子メール、フォーラムへの参加回答など)を活用。

### ●2018年調査(読解力分野)の公開問題【ラバスイ島】

#### 問1



3種類の課題文で構成  
○大学教授のブログ  
○書評  
○オンライン科学雑誌の記事

問6 【測定する能力 ②理解する】  
ドラッグ&ドロップ操作により選択肢を正しい位置に移動させ、表を完成させる。

問1【測定する能力 ①情報を探し出す】  
ある大学教授のブログを画面をスクロールして読んだ上で、教授がフィールドワークを始めた時期を選択して解答する。

#### 問6



タブをクリックし、画面表示する課題文を選ぶ。

- ◆テキストから情報を探し出す問題や、テキストの質と信ぴょう性を評価する問題などの正答率が比較的低い。
- ◆自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明することに引き続き課題。

➡ **新学習指導要領の実施による、①各教科等における読解力等の言語能力や②情報活用能力の確実な育成が必要**

# PISA調査結果を踏まえた文部科学省の施策

## 1. PISA調査結果における各課題に対応した新学習指導要領の実施

文部科学省において、PISA調査結果における各課題に対応した新学習指導要領を着実に実施するとともに、各種施策を推進し、教育委員会・学校・教職員の取組を支援

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現

(2) 読解力等の言語能力の確実な育成

① 小中高等学校を通じた国語科における指導の充実

- ・文章を正確に理解するために必要な語彙、情報の扱い方の確実な定着（辞書や事典の活用等）。
- ・「読むこと」の指導における㊦文章の構成や論理の展開、表現の仕方を捉え内容を解釈すること、㊧文章と図表の関係を踏まえて内容を理解すること、㊨文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち表現することの重視。
- ・多様な文章を読んで考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりするなどの言語活動の重視。

② 言語能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実

- ・グラフや図表を読む、実用的な文章（新聞や広報誌等）に触れる等の機会の充実や各教科等の学習を支える語彙の確実な習得（辞書や事典の活用等）のための各教科等の特質に応じた言語活動等の充実。
- ・総合的な学習（探究）の時間や理数探究等における論文、レポート等を重視した言語活動の充実。
- ・朝の読書活動等による読書習慣の定着や学校図書館の整備・活用等の言語環境の整備。

(3) 情報活用能力の確実な育成

(4) 理数教育の充実

(5) 全国学力・学習状況調査も活用した指導の充実

## 2 学校のICT環境整備の加速化に向けた取組の推進

## 3 全児童生徒の教育機会の確保によるセーフティネットの構築

# OECD生徒の学習到達度調査(PISA)等

- 国立教育政策研究所  
<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html>
- 教育課程研究センター 教育課程研究指定校事業  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shiteikou.html>
- 教育課程研究センター 指導資料・事例集  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
- 国際バカロレア (IB) MYP (Middle Years Programme)  
<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/myp/>
- 読解力育成プログラム関連 言語力育成協力者会議 三森委員  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/attach/1399588.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/attach/1399588.htm)



# これからの英語学習について competency できる力

- 英語情報Web（英語検定協会）<https://eigojoho.eiken.or.jp/>
- 小学校英語教育について なるほど！小学校外国語 直山視学官の話
- [https://www.youtube.com/watch?v=O2TrA1K8E64&ab\\_channel=%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%2Fmextchannel](https://www.youtube.com/watch?v=O2TrA1K8E64&ab_channel=%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%2Fmextchannel)
- 中学校英語教育について 山田調査官

第一弾 <https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200710-04>

第二弾 <https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200710-05>

第三弾 <https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200710-06>

第四弾 <https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200710-07>

第五弾 <https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200710-08>

参考資料 [https://www.youtube.com/watch?v=vWOrb1ffu7k&ab\\_channel=Kendra%27sLanguageSchool](https://www.youtube.com/watch?v=vWOrb1ffu7k&ab_channel=Kendra%27sLanguageSchool)

# 読解力と思考力・判断力・表現力の関連

- 読解力とは？
- Reading 音読・速読・多読・精読。探読(探究的・研究的読書)積読
- Literacy 読み書き能力
- 多様化するliteracy
- ICT(IT)操作
- メディア操作(media literacy)
- 絵本・漫画・アニメ・動画⇒読書？
- 映画化・動画化・脚本化
- 読み取り⇒行為(料理のレシピ)
- マニュアル理解⇒操作(組み立て)
- 留意事項読解⇒契約
- 法律⇒規範 罰則・行為許可
- 思考・判断・表現(・行為)
- 分析・比較・統合
- 個別・一般・普遍
- 主観・客観 主体・客体
- 抽象・具体・具現
- 帰納・演繹
- 概念化・対象化・一般化・個別化
- 理論・論理・根拠・原因
- 仮説・検証
- 批判的・創造的・水平的
- メタ認知 ラディカル思考
- クリティカル(批評的・吟味的)
- 比喩(暗喩 隠喩・明喩 直喩)
- 多角的・多面的・多層的・多重的

# 読解力⇒リテラシー 10の力

1. 概要や要点をつかむ力: 話や本、文書などの大まかな内容や要点などが分かる
2. 文章を要約する力: 話や本、文章などを目的に応じて指定の分量で短くまとめる
3. 必要な部分を引用する力: 目的に応じ、文章の一部や文、節、語句などを用いる
4. 絵や写真等を活かす力: 目的や本文との関連で、絵や写真等を位置づけ、活かす
5. 調べる力: 本や資料、人との取材などから、必要な内容を見つけ、整理しまとめる
6. 複数の文章を比較する力: 複数のテキストを読み比べ、同異や特徴などを把握する
7. 意見や考えを発表する力: 自分の意見や考えを発表し、それらを再構成する
8. 吟味し評価する力: 内容や数値の客観性・正当性、表現の特性や効果を把握する
9. 図表を読み取る力: 目的に応じ、図・写真・絵・表・グラフから情報を取り出す
10. 図解する力: 読み取った内容を目的に応じて図表その他で効果的に相手に伝える

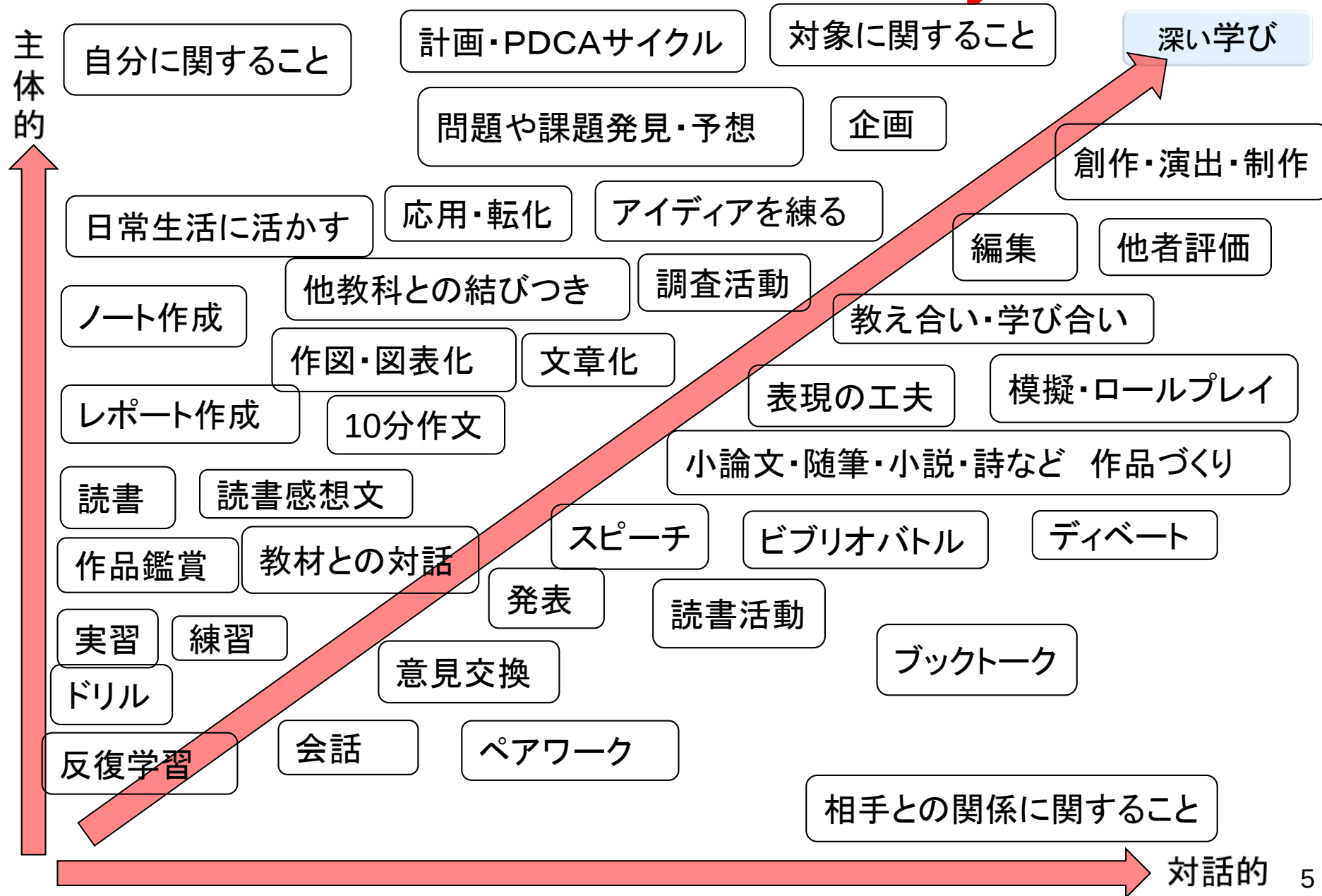
※ 国語科だけではなく、全教科に渡って意識する内容及びスキルとしてのliteracy

# リテラシー(literacy)育成の方策 10点

- ① 日常的に読書をする(図書館活用・読書推進・読書活動啓発実施)
- ② 学校のベクトルを読解力(リテラシー)に焦点化する
- ③ 学習内容を家庭や地域に示す 報告・発表・啓発の場を設ける
- ④ 読み聞かせ・範読・音読・多読・積読・速読・メモ・感想・記録の継続
- ⑤ 教科学習で先に示した10のliteracyを意識して取り組む
- ⑥ 教科学習で課題発見・調査探究・自発的自律学習を実践する
- ⑦ 好みの本・資料・メディア・インターネット情報にアクセスし報告する
- ⑧ 書籍・資料・漫画・映画・動画・人から学ぶことにレスポンスする
- ⑨ 「場と経験」で能力は系統的に高まることを自覚する、自覚させる
- ⑩ ITを活用した学びを導入する デジタル・AIの効果的活用を図る



# 学習活動とliteracy



# リテラシー育成の事例掲載の本

- これならできる！楽しい読書活動(学事出版 2015年4版)
- これならできる！図書を活用した楽しい学習活動(同 2017年)
- 主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の授業デザイン アクティブ・ラーニングの理論と実践(学文社 2016年)
- 主な内容 アニマシオン、ビブリオバトル、ブックトーク、図書館ノート、絵本づくり、クリティカル・リーディング、朝読書活用、デジタル読書、学校外読書(家読)、みんなで本屋さん、本からの挑戦状、書評座談会、学級文庫、全校一斉新聞読書・感想文、読書記録、学校経営、学校図書館、教科での探究的な学び、読み聞かせ、情報活用能力、公立図書館連携、小中連携、読書活動推進計画、協働的な学び、アクティブ・ラーニング、オーセンティックな学び、マルチメディア活用、動画活用、ジグソー法、ワークショップ型授業、セッション型授業、学びの技法、シンキング・ツール(グラフィック・オーガナイザー)

# 「主体的・対話的で深い学び」 と読書・読書活動の関係

読書活動の意義や役割、その可能性を考えてみようとする先生方に、どの教科の授業でも、どの教科の教員でもすぐに手軽にできる読書活動や、授業の中で取り組める効果的な読書活動、読書指導を具体的に示す事例集。3刷決定



[akuji.co.jp/book/978-4-111-8.html](http://akuji.co.jp/book/978-4-111-8.html)

読書及び読書活動は、  
主体的・対話的で深い  
学び である！

小学校の各教科、道徳、総合的な学習の時間、外国語活動で図書を活用した学習の先進的な実践事例集。単元指導計画、ワークシート例も豊富に掲載。楽しく・無理なく授業に読書を取り入れられます。

59

<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2328-0.html>



# 主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の 授業デザイン アクティブ・ラーニングの理論と実践

<http://www.gakubunsha.com/book/b252991.html>

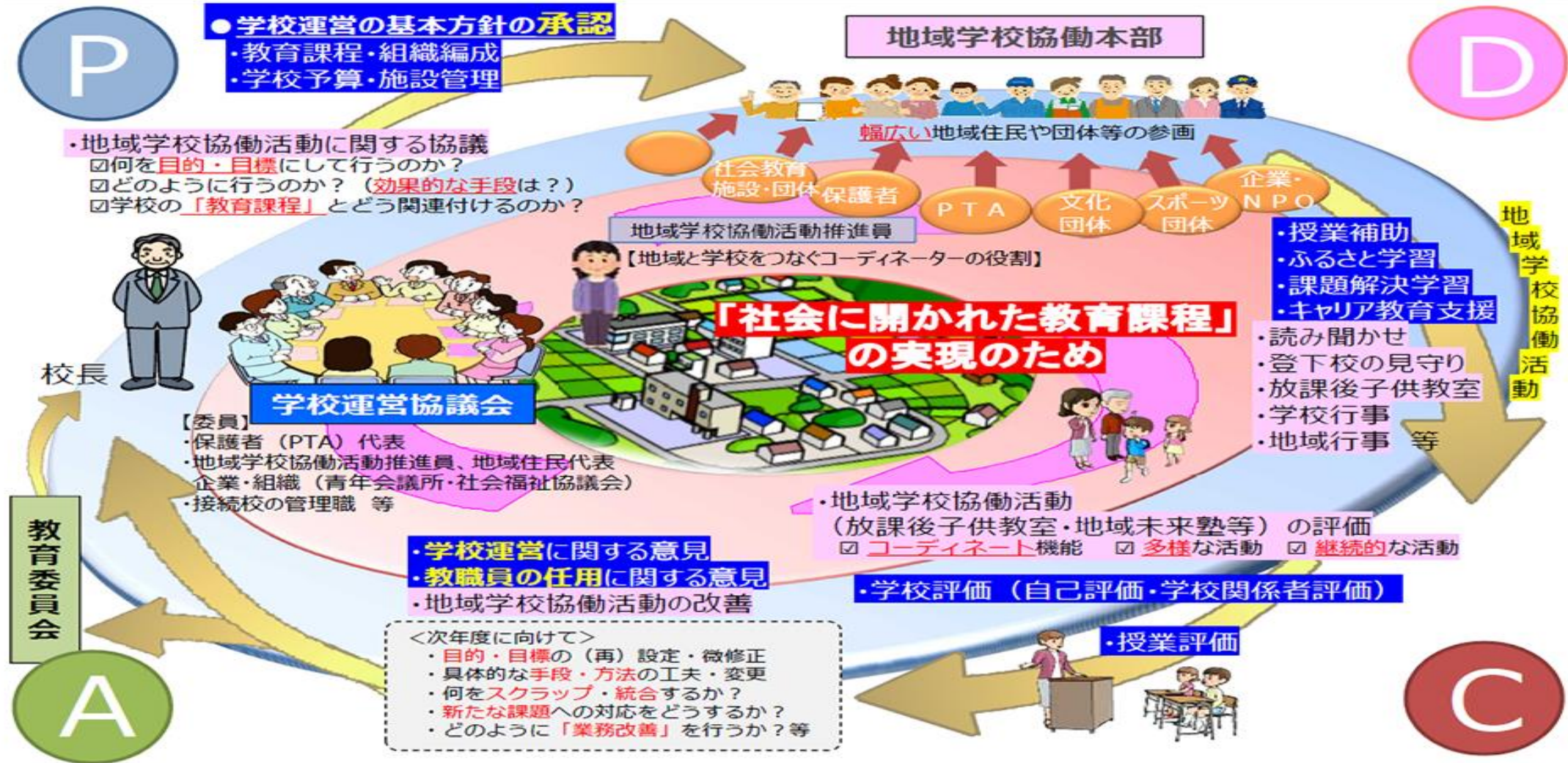


中教審答申に示された「主体的・対話的で深い学び」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」を取り入れた中学校・高校の国語科はどのように授業すればよいのか。その理論と方法を研究者が解説し、それらと関連づけてデザインした授業に取り組む教師がその実践内容を具体的に示しながら指導計画・展開例、評価規準等を丁寧に着した必読書。



# 社会に開かれた教育課程 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/pdca.pdf>

「社会に開かれた教育課程」の実現のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

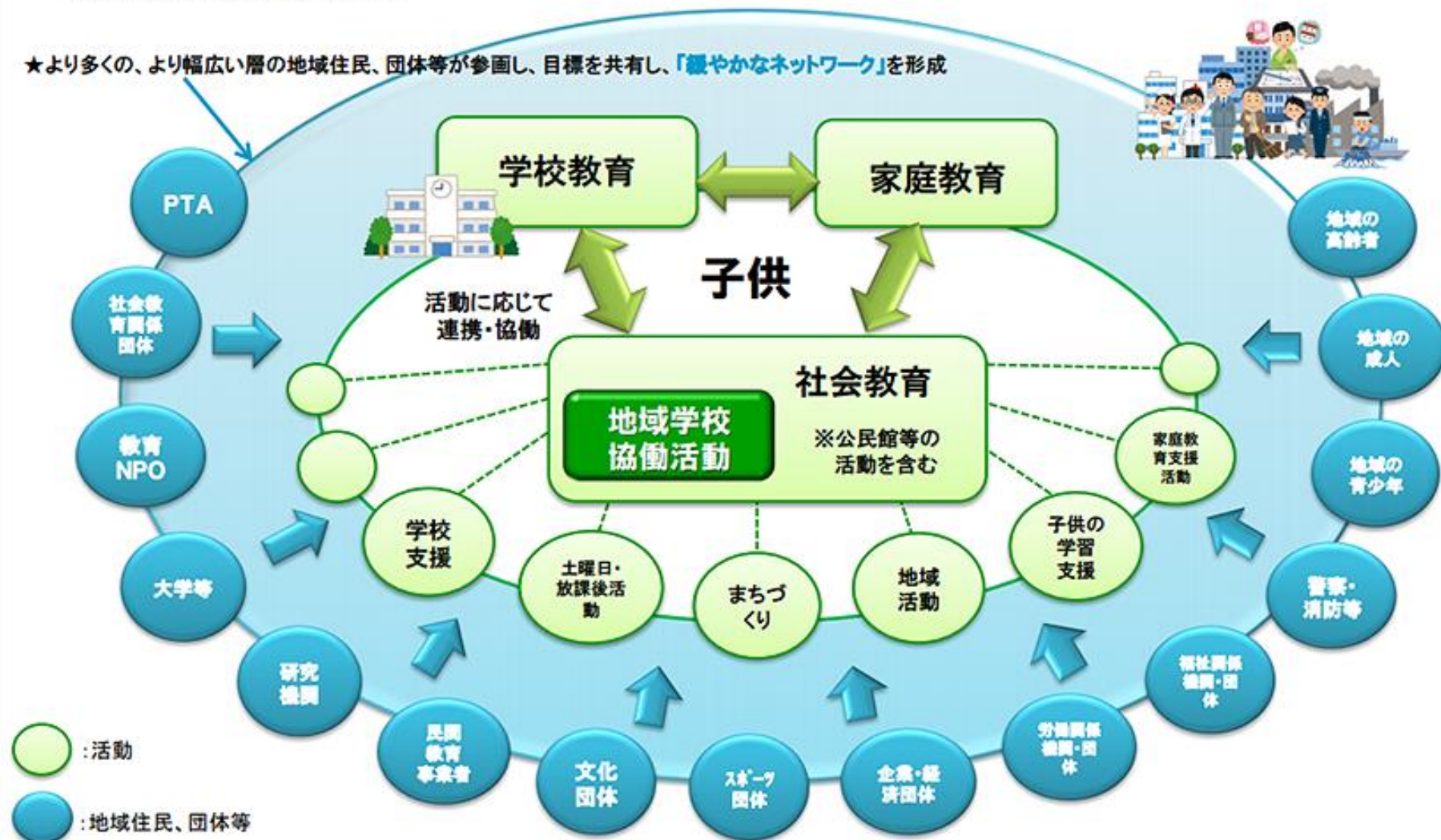




## 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



# コロナ Covid-19 をめぐる教育

## With Covid-19(転)

Zoom等の活用(双方向)

アクティブ・ラーニング的(可能な「主体的・対話的で深い学び」の探究へ)

コンテンツの課題

「3密」への対応

## After Covid-19(結)

ZoomとYouTube等での発信

ハイブリット学習(リアルとネット)

コンテンツの重視(副教材開発)

(新たな「主体的・対話的で深い学び」の開発と探究へ)

新たな「3密」へ

## Before Covid-19(起)

演習・対話中心の学習

アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)

「3密」の学び

## Attack Covid-19(承)

YouTube等での発信

一方通行の学習

課題の問題(非主体的・反対話的・没深い学び)

「3密」の排除

常に大人社会の影響下にある子どもこそが当事者！

ご協力、ありがとうございました。

## (一社) 教育デザイン研究所

新宿区四谷 1 - 1 8 高山ビル3F-B(JR/地下鉄四ツ谷駅徒歩3分)

TEL03-5 3 4 1 - 4 2 2 7 Fax 03-4332-2338

リアルとオンラインによるハイブリットな学びの追求

★非常勤講師を正規教員に！ (オンラインでの教員採用試験対策講座実施)

★表現・創作型の英語・国語・数学・プログラミング等の言語・記号学習

大型タッチスクリーンによるハイブリットスタジオ/on-line共有会議室 (導入予定)

<https://educational-design.jimdo.com/>

事務局： [yoshidak13@edri.tokyo](mailto:yoshidak13@edri.tokyo) 個人： [yoshidak13@goo.jp](mailto:yoshidak13@goo.jp)

玉川大学教師教育リサーチセンター

東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL042-739-8116 Fax：042-739-8857

東京都地域学校協働推進事業推進員

狛江市地域学校協働活動推進事業統括コーディネーター

町田市社会教育委員の会議長／町田市生涯学習審議会会長

日本大学文理学部教育学科非常勤講師





## 悩み多き教師の皆様に寄り添う本

教師らしいストイックな堅さは、諸刃の剣。堅いだけでは、壊れてしまう! ストレスを溜めない、悩まない! 人とつながる「教師」のための処世術!

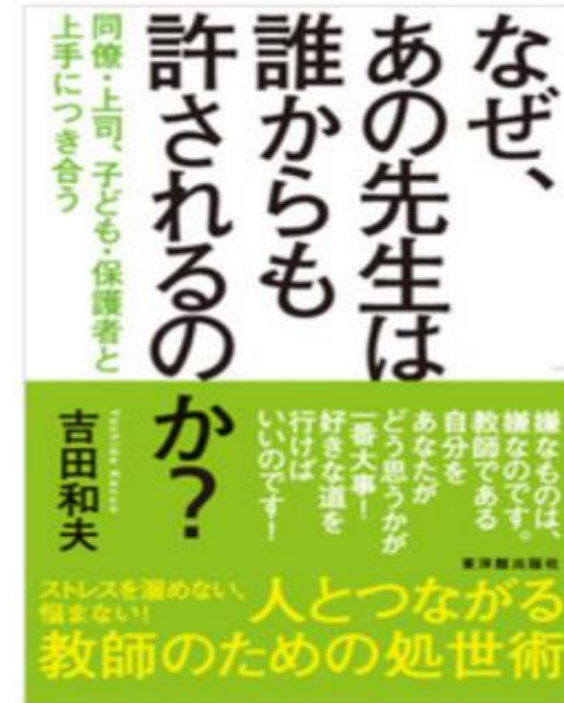
教師である自分を、あなたがどう思うかが一番大事! 自分をもっと好きになるノウハウ満載!

東洋館出版 2013年3月発行

現在4刷

定価 1,944円(税込)

<http://www.toyokan.co.jp/book/b107891.html>



## より良い学校経営と人財育成のための本

教員の「多忙感」を解消する学校経営、すなわちプロジェクト型経営を提案します。教員が仕事しやすい組織、教員のやる気を引き出すコーチングを通して、学校全体のパフォーマンスを高めます。そのプロセスで、教員間の「人間関係」をスムーズにし、教員の「多忙感」を解消します。

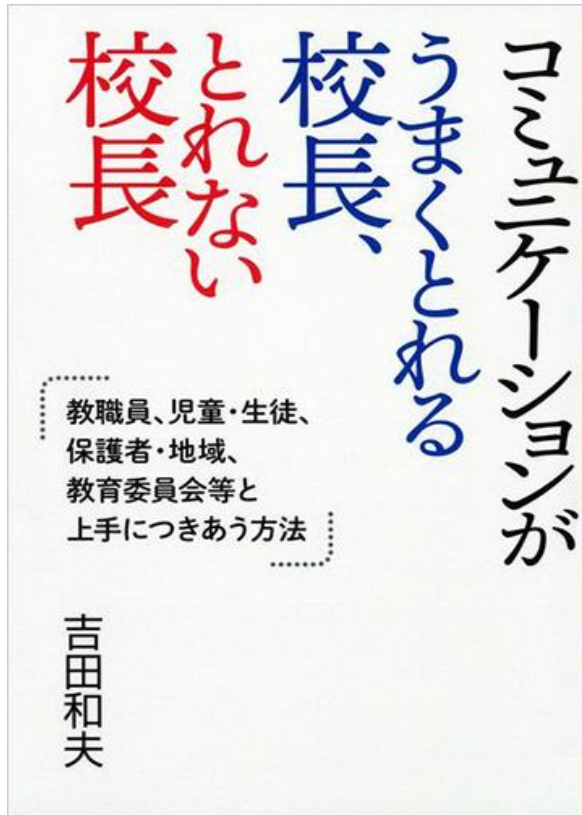
東洋館出版 2015年2月発行 現在4刷

定価 2,160円(税込)

<http://www.toyokan.co.jp/book/b193953.html>



# コミュニケーション・ストラテジーの提案



吉田和夫 著

四六判 192ページ 定価(本体1,800円+税)

ISBN978-4-7619-2579-6

教職員や児童・生徒、保護者や地域に校長の教育理念を伝え浸透させ、めざす学校づくりを実現するためには、コミュニケーション力が最も重要。具体的な事例を取り上げ、コミュニケーション力を高める基本的な考え方や方策を示す。

<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2579-6.html>

はじめに

2017～18年にかけて、月刊「プリンシパル」に実際の事例に基づき連載した、「校長のためのコミュニケーション・ストラテジー 校長の会話力で学校が変わる(2017年度)、校長の会話力で学校が活きる(2018年度)」を編集し直して発行したものです。

## 第1章 なぜいまコミュニケーション力が大事なのか

### 第2章 教職員とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 職員室の雰囲気が悪い 【事例1】やる気のないベテラン教員
- 2 明るい職員室が生き生きとした児童・生徒を育む 【事例2】現任校に不満をもつ教諭
- 3 校長の言葉かけと教員の指導 【事例3】地域同士の反目が生徒に影響
- 4 チーム学校を目指して 【事例4】教職員や児童・生徒とうまくいかない
- 5 チーム学校とは言えけれど 【事例5】自分のやり方を押し通す事務主事
- 6 教職員間での立場の違いが生む意見対立 【事例6】学校司書と国語科教諭の対立
- 7 多忙な教師をおそう「うつ病」への対応 【事例7】前任校での「うつ」を知らされず転任

### 第3章 児童・生徒とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 児童会・生徒会・委員会役員などとの対話 【事例8】生徒の自主性・自律性を生かした学校づくり
- 2 不登校やいじめ被害の児童・生徒への対応 【事例9】いじめが原因の不登校
- 3 課題のある児童・生徒への対応 【事例10】次第に欠席が増えていく生徒
- 4 特別な支援を要する児童・生徒への対応 【事例11】介助が必要な2人の児童
- 5 うつ病の可能性のある児童・生徒への対応 【事例12】落ち込むことが多くなった児童

### 第4章 保護者・地域とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 学校への不信・不満をもつ保護者への対応 【事例13】担任に対する保護者の不満
- 2 クレームの多い保護者への対応 【事例14】クレーマーと言われる保護者の背景
- 3 PTAなど学校支援組織の保護者への対応 【事例15】行き詰まるPTA運営
- 4 学校運営協議会委員など地域の方への対応 【事例16】コミュニケーションに問題がある教頭
- 5 課題のある地域住民への対応 【事例17】騒音被害を訴える学校近隣住民

### 第5章 教育委員会・関係諸機関とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 学校行事に関する教育委員会との調整 【事例18】創立周年行事をめぐる学校と教育委員会の対立
- 2 人員配置に関する教育委員会との対応 【事例19】人事異動の影響
- 3 教育委員会担当指導主事及び担当者への対応 【事例20】教育委員会との対応に問題がある教頭
- 4 教育委員会指導課(室)以外の関係者への対応 【事例21】プライベートで議員に話した内容が公に
- 5 関係諸機関との対応 【事例22】図書館とのタイアップのつもりが...

# 学校と社会教育を結ぶコンテンツとしての 言語としてのプログラミング学習



<http://social-edus.net/20177repprog/>

プログラミングは国語や英語と同じ「言語」だということです。いわば、機械を操作し、動かすための言語ということです。

国語教育では、「順序立てて考える力」、「感じたり想像したりする力」、「伝え合う力」などが求められていますが、まさに、プログラミング学習もそれが求められることになります。小学校でのプログラミング教育は、このような広い意味での「ことばの力」をはぐくむものだと言えます。

中学校、高校、大学でのプログラミング教育はより専門的かつ工学的なものになるのですが、小学校で求められるプログラミング学習は各教科で行われる「ことばの力」を育成し、それぞれの教科の内容を補充するツール(道具)として機能します。



# 「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり

具体化のためのテーマ別実践事例15

貝ノ瀬 滋 [監修]

稲井 達也・伊東 哲・吉田 和夫 [編著]



「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり—  
具体化のためのテーマ別実践事例15 2018/12/12  
学事出版発行  
稲井 達也 (著, 編集), 伊東 哲 (著, 編集), 吉田 和  
夫 (著, 編集),  
貝ノ瀬 滋 (監修)

## 第1部

「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの概説

- 1 「社会に開かれた教育課程」とこれからの学校教育  
～多忙化する学校改革の視点から～
- 2 「社会に開かれた教育課程」を実現する教育委員会との連携の在り方
- 3 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた校長・副校長・教頭の役割  
～スクール・マネジメントの観点から～
- 4 「社会に開かれた教育課程」を実現する要としての学校図書館  
～学ぶとは知ること、学ぶとは変えること～

【コラム】

「社会に開かれた教育課程」の  
具体を生み出す方法的枠組みについて

## 第2部

「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの実践事例

- [1] コミュニティ・スクール
- [2] 保幼小連携教育
- [3] 小中一貫教育
- [4] 「読書のまち」と読書活動
- [5] 健康教育
- [6] 食育(スーパー食育スクール)
- [7] 睡眠教育(みんなく)
- [8] がん教育
- [9] 観光教育
- [10] グローバル教育
- [11] ESD(持続可能な開発のための教育)
- [12] 人格(品格)教育
- [13] キャリア教育
- [14] 特別支援教育
- [15] 主権者教育

テーマ別に15の実践事例を収録。  
新学習指導要領を具体化するカリ  
キュラム・マネジメントの必携書。  
【教育課程/小・中学校管理職対象】





## 効果的な研修会のためのDVD教材

大津市のいじめ自殺をきっかけに再びクローズアップされているいじめ問題。いじめに発展しやすいサインのを見つけ方、兆候があった際の対応法を映像で解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

●DVD31分 手引書、研修用ワークシート付き

学事出版(2014/12/15)



急速に普及するスマホ・ネットに関連しての子ども達のトラブルが増加しているが、教師や保護者は知らないことが多い。知っておくべき知識、予防、対応を映像で解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

学事出版(2015/12/15)

●DVD31分

手引書、研修用ワークシート付き  
学事出版(2014/12/15)

3巻とも、全て定価 12,960円(税込)

心を病み休職、さらには退職に至る教職員は年々増加している。本人や周囲が不調のサインに早期に気づき、対応するためのポイントを映像でわかりやすく解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

●DVD31分

手引書、研修用ワークシート付き

学事出版(2014/12・15)



<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2085-2.html>

見本動画あり！

# 教員養成と教育実習・教員採用試験



玉川大学教師教育リサーチセンター著  
2020年12月 時事通信社発行  
定価：2200円＋消費税  
ISBN：978-4-7887-1713-8



玉川大学教師教育リサーチセンター (編)  
2020年12月 時事通信社発行  
定価：2000円＋消費税  
ISBN：978-4-7887-1693-3



現在、月刊誌3誌にコラムを連載中！



新しい「ラーニング・コミュニティをみんなで創ろう」で連載中

日本青年館 発行  
<http://social-edu.com/>



4月より「学校の理不尽について」  
両誌に同時連載中！

学事出版 発行  
<http://www.gakuji.co.jp/magazine/principal/index.html>

